

Asia-Pacific
OPEN GOLF
CHAMPIONSHIP



Asia-Pacific OPEN GOLF CHAMPIONSHIP
KIRIN OPEN GOLF

¥100,000,000 PURSE

APRIL 20-21-22-23, 2000 IBARAKI GOLF CLUB EAST COURSE



新鮮な明日へ
KIRIN

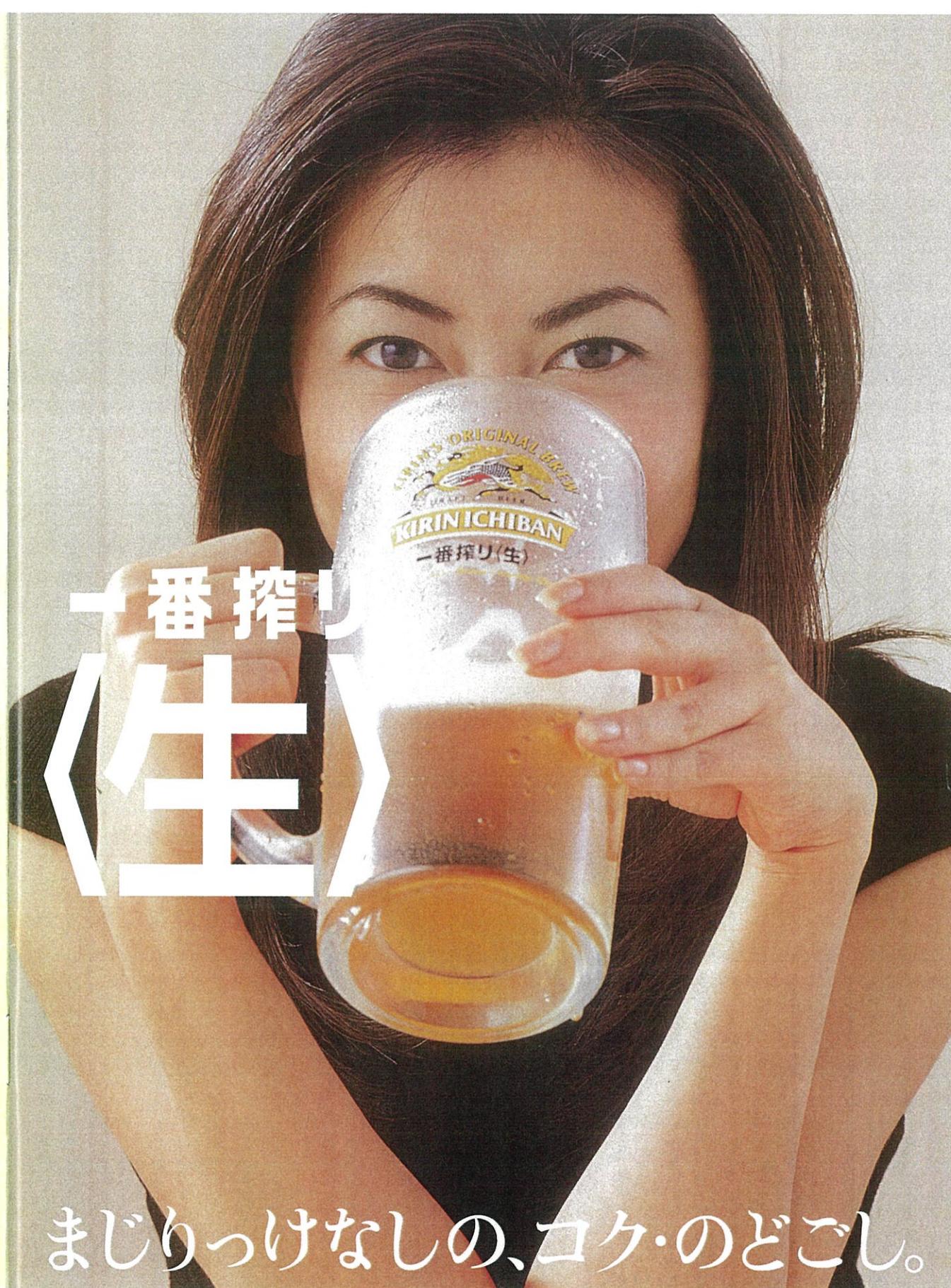
うまい!キリン



キリン一番搾り〈生〉



飲酒は20歳になってから。あきかんはリサイクル。ホームページアドレス <http://www.kirin.co.jp>



一番搾り
〈生〉

まじりっけなしの、コク・のどごし。

キリンビール株式会社



飛ばす糸巻き、プロをも動かす。

まずドライバーでの飛距離に驚いた。しかもアイアンでは
デッドに狙える。世界を目指すには
これしかないと思った。

'99賞金ランキング2位
今シーズンより
ダンロップと契約

ダンロップ契約プロ
細川 和彦

Kazuhiko Hosokawa

プロで勝負できるボールを選びぬいた結論は、
このボールの糸巻きとは思えない
強い弾道だった。

アマチュア通算
52タイトルを獲得した
"新星" いよいよデビュー

ダンロップ契約プロ
星野 英正

Hidemasa Hoshino



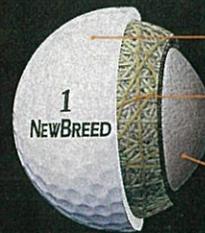
ドライバーで飛ばして、点で狙う。ニューブリードプロワウンド出現。

プロ・上級者ほど、自在に操れるスピン性能と柔らかい打球感を大切に。そんな
糸巻き(ワウンド)本来の性能を向上させつつも、ニューブリードプロワウンドは、とに
かく飛ぶ。特にドライバーで吹き上がらない強い弾道で飛ぶ。1打目からリードし、
イメージのままにピンを狙い、そしてカップ
へ1ストローク早く。1999年、宮瀬博文と
川岸良兼の復活Vの原動力となり、世界
を狙う細川と"新星"星野が選んだ飛ぶ
糸巻きが、上級者の戦略をも大きく変える。



'99 住友VISA 太平洋マスターズ優勝 宮瀬 博文
'99 フィリップモリス チャンピオンシップ優勝 川岸 良兼

[新構造糸巻き] マルチスピン&ソフトフィール設計



高反発エラストマーソフトカバー(410ディンプル)
高いスピン性能とソフトな打球感。

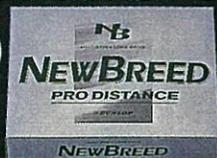
IRラテックス糸ゴム
糸巻きならではのソフトな打球感とコントロール性。

新開発 E.G.G.コア (特許出願中)
Energy Growing Gradient Core

ウッドやロングアイアンで、適度におさえら
れたスピンと高打ち出しによる大きな飛距離。

青木功、渡辺司も使う
飛ぶ、寄せる、戦略自在スリーピース。

同時発売



ニューブリード プロディスタンス
1個 ¥800

※価格は全てメーカー希望小売価格、消費税抜き。

NB NEW BREED PRO WOUND

ニューブリード プロワウンド



1個 ¥800

プロ絶賛。戦略が違ふ。ニューブリードの詳しい情報を、FAXとインターネットであなたに直送中! (商品についてのお問い合わせは 東京 03-5546-0160 神戸 078-265-3045)
お電話から東京 03-3940-6000 大阪 06-6455-6000をダイヤル。音声ガイドに従ってBOXナンバー 525541#を押してください。http://www.dunlop.co.jp/(ダンロップ ゴルフワールド)

Asia-Pacific OPEN GOLF CHAMPIONSHIP KIRIN OPEN GOLF

新世紀を目前にした2000年、
日本のトーナメントの中にあつて、そして
アジアツアーの日本大会として
長い歴史を刻んできたキリンオープンが生まれ変わる。
アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技 キリンオープンゴルフ。
スコットランドのR&Aが全英オープンを
米国のUSGAが全米オープンを主催するように、
アジア太平洋ゴルフ協会(APGC)が主催する、
アジア太平洋の最高位のゴルファー決定戦。
それは、アジア太平洋地区が一つに融和し、
世界に向かって発信するゴルフのメッセージでもある。
皆さまの暖かいご声援のもと、キリンオープンは
新たな歴史を歩み始める…。



Contents

- 4 あいさつ
- 9 大会役員リスト
- 10 大会実施要項・賞金リスト
- 12 1999大会ハイライト
- 16 主な出場選手紹介
- 24 コースガイド
- 28 ホール紹介
- 32 特集「新生キリンオープン」
- 39 現地ルポ「アジアのゴルフ仲間探訪」
「マレーシア編」
- 45 チャリティ&ボランティア
- 48 大会の変遷

本年度国内公式競技の第一戦として、国際的なオープン競技の開幕を告げるキリンオープンが、ここに開催の運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えないところであります。

本競技は本年度より新たに、当協会とアジア太平洋ゴルフ協会 (APGC) との共催により開催され、大会名称も「アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ」として生まれ変わりました。

大会はアジア太平洋ゴルフ協会に加盟する各協会から、それぞれを代表するアマチュアとプロフェッショナルが出席し、他の国内競技にはない国際色豊かな大会になる事と存じます。

また、当協会では、本競技を日本オープンゴルフ選手権競技をはじめ当協会主催のナショナルオープンと同格に位置づけ、これまで以上に皆様方に愛される大会にすべく、力を注いでいく所存であります。

本競技開催にあたりご支援いただきました特別協賛のキリンビール株式会社、コースメンテナンスにご尽力いただきました茨城ゴルフ倶楽部関係者各位に深く敬意を表しますと共に、大会運営を支えていただく多くの皆様方に心からお礼を申し上げます。また、参加各国間の国際親善に寄与し、日本ゴルフ界の発展に意義の深い大会となりますことを心より祈念いたします。

Now as we start a new season of the year 2000, I am greatly pleased to announce the opening of the first international open tournament, Kirin Open, which is also the starter of the JGA official championships of this year.

The Championship enters its first year under the new name of "Asia-Pacific Open Golf Championship Kirin Open Golf" jointly organized and hosted by Japan Golf Association and Asia Pacific Golf Confederation.

From all the member countries of APGC, many professional and amateur golfers participate and they, together with local players, will surely succeed in making the competition an internationally significant and successful event.

Japan Golf Association will exert its best effort for the Championship to become known as one of the most important and prestigious tournaments, inspiring interest of those who love the game, same with "Japan Open Golf Championship" and other JGA tournaments.

Finally, I express my sincere gratitude and grave respect to all the people who did precious deeds for the Championship, especially Kirin Brewery Company, Limited as the sponsor, Ibaraki Golf Club for its course maintenance and all others who engaged in organizing the event.

I wish the event may contribute to international friendship and encourage the development of the game in Japan.



大会会長
財団法人 日本ゴルフ協会 会長
Tournament Chairman

President
Japan Golf Association
Masaharu Gotoda

後藤 正晴



大会名誉会長
アジア太平洋ゴルフ協会 会長
Tournament Honorary Chairman

President
Asia-Pacific Golf Confederation
Tu Mingde

今回、新たなJGAの公式戦「アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ」を財団法人日本ゴルフ協会とともに開催することは、私どもアジア太平洋ゴルフ協会にとりまして誠に喜ばしい事だと感謝しております。

当協会は1963年の「アジアアマチュアゴルフチーム選手権 (現:ノムラカップ)」開催を機にアジアアマチュアゴルフ協会として発足し、その後アジア太平洋ゴルフ協会と名を改め、現在「ノムラカップ (アジア太平洋アマチュアチーム選手権)」、「ボナラックカップ (アジア太平洋ゴルフ協会—ヨーロッパゴルフ協会対抗戦)」を主に開催するなど、アジア太平洋地域のゴルフ発展と普及に力を注いでおります。

今大会には当協会に加盟している日本を除く24の協会・連盟・ユニオンが推薦した多数のトップアマチュア、プロフェッショナルの出場を予定しており、アジア太平洋地域のNO.1プレーヤーを決めるメジャーオープンチャンピオンシップが初めて日本で行われることは誠に意義深いことと思います。

私は、この最高のゴルフ選手権に参加する選手達を祝福し好プレーを見せてくれるのを期待しております。今大会が実現出来る事となりました関係者の皆様特にキリンビール株式会社の皆様の御努力、御支援に深い深甚なる誠意を表明すると共に第一回アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフが成功裡に行われますようお願いしております。

It is a great honor for us, Asia Pacific Golf Confederation, to have an opportunity to co-host a new JGA official cup "Asia-Pacific Open Golf Championship Kirin Open Golf" with Japan Golf Association.

We inaugurated as Asia Amateur Golf Confederation by hosting "Asia Amateur Golf Team Championship (present Nomura Cup)" in 1963. A while later, we changed our official name to current Asia Pacific Golf Confederation. Presently, as Asia Pacific Golf Confederation; we have largely been engaged in the development of golf activities in Asia Pacific region through hosting such cups as "Nomura Cup (former Asia Pacific Amateur Golf Team Championship)" and "Bonallack Cup (Asia Pacific Golf Confederation VS European Golf Association Team Match)".

A large number of top amateurs and professionals, who are nominated by as many as 24 different associations, federations, and unions of our members (excluding Japan) are scheduled to participate in this Kirin Open. It is truly significant and meaningful for us to co-host this major open championship in Japan, which decides the No.1 player in Asia Pacific region.

I sincerely hope that all the participating players of this Kirin Open will do their utmost performance. Taking this opportunity, I would like to express my heartiest gratitude to Kirin Brewery Company, Limited and people concerned for their extended efforts to realize this cup. I truly believe that the first Asia-Pacific Open Golf Championship Kirin Open Golf will bring a prominent success to all of us.

今年もまた「キリンオープンゴルフ」が、関東の名門コースである、ここ茨城ゴルフ倶楽部で開催される運びとなりました事を誠に喜ばしく存じます。また、本大会に、今年もまた特別協賛社として微力ながらお役に立てますことは、誠に光栄な事でございます。

今大会は、これまでのアジアツアーの伝統と格式を受け継ぐ形で、「アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ」と改め、アジア太平洋地域に広く門戸を広げ実施する大会であり、また、春の訪れとともに日本のゴルフシーズンの本格的幕開けを告げる大会でもあります。本大会が、21世紀に向けて、日本を、そしてアジアを代表する大会として今後益々発展していく事を願っています。

弊社は、お客様の「健康」「楽しさ」「快適さ」に貢献する企業を目指し、様々なスポーツ支援を進めてまいりました。本大会への協賛もその一環であり、今後も日本ゴルフ界の更なる発展の為に、できる限りのお手伝いをさせて頂く所存でございます。

最後になりましたが、本大会の開催にご尽力を頂きます関係者の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、大会を大いに盛り上げる為にも、皆様のご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

I am pleased to hold the "Kirin Open Golf" at the traditional Ibaraki Golf Club again this year. It is also a great honor for us to be a part of this championship as the title sponsor again this year.

The title of the championship has been changed to "Asia-Pacific Open Golf Championship Kirin Open Golf", succeeding the tradition and formality. It is open widely to Asia and Pacific region, and begins the golf season at the start of spring throughout Japan. We hope that this tournament will increasing develop into the 21st century, representing Japan and Asia.

The Kirin Brewery Company supports various kinds of sports, aiming to contribute to our customer's "health", "pleasure", and "relaxation". This tournament is a part of this aim. We are very pleased to support the golf community in Japan, as much as we can, so that it develops further.

I would like to express our gratitude to all people that have worked so hard to make this tournament possible, and I ask you sincerely for your continued support.



大会名誉会長
キリンビール株式会社 取締役社長
Tournament Honorary Chairman

President
Kirin Brewery Company, Limited
Yasuhiro Satoh

佐藤安弘



大会副会長
茨城ゴルフ倶楽部 理事長
Tournament Vice Chairman

President
Ibaraki Golf Club
Hajime Koga

古賀始

今年も国内公式戦の開幕戦であります「アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ」が私ども茨城ゴルフ倶楽部にて開催されることは、誠に光栄かつ名誉あることと存じます。

本大会には毎年、アジア各国よりその国を代表致します多くのトッププレイヤーが参加され、迎え打つ日本のトッププレイヤーと熱い戦いを繰り広げております。

又、今年からは新たにアジア太平洋ゴルフ協会が主催に加わりまさにアジア太平洋地域における真のNo.1プレイヤーを決める大会となりました。

当倶楽部といたしましても、選手の皆様に熱い戦いの場にふさわしい最高の舞台を提供できるよう従業員一同力を注いで参りました。

今年は2年ぶりに東コースでの開催となりますが、距離もありタフなコースを選手の方々がどのように攻めるのか非常に楽しみなところです。

また、毎年ご協力をいただいているボランティアスタッフも今年で6年目を迎えることになりました。今や大会運営の大きな柱としてなくてはならない存在となり、貴重な時間を割いてご参加いただいている皆様に対して改めて心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催にご尽力を賜りました関係各位の皆様には厚く御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

It is great pleasure to be able to host the first JGA official event "Asia-Pacific Open Golf Championship Kirin Open Golf".

Every year, top players representing each Asian country compete with Japanese top players in this championship. Also, from this year, this championship has changed with our new sponsor, Asia Pacific Golf Confederation (APGC), and this event became one of which determines No.1 player of Asia Pacific area.

We also have been working very hard to provide players the best condition of our golf course as a host golf club. We look forward to watching players compete on the East course which is long and tough.

We have asked volunteers for their cooperation for 6 years already and their activities occupy a very important position in this championship. We sincerely appreciate their cooperation.

In conclusion, I would like to express my deepest gratitude to all the people involved in making this championship a successful event.

ゴルフ場利用税撤廃に
182万人の手があがりました。



99年5月1日から6月30日までの
二ヶ月間に実施いたしました
「ゴルフ場利用税撤廃署名運動」で、
181万9,456名もの署名を集めました。
皆様の熱いご支援とご協力に、
心より感謝申し上げます。
今後も「ゴルフ場利用税撤廃」に向け、
より一層皆様のご支援、
ご協力をお願い申し上げます。

Championship 大会役員 Officials

- 大会会長
後藤田正晴
- 大会副会長
Neil Woodbury
中井 文治
平田 豊
古賀 始
- 大会名誉会長
Tu Mingde
佐藤 安弘
- 大会名誉顧問
Thomas Lee
真鍋 圭作
安達 慎三
広瀬 道貞
浅井 光昭
- 大会役員
菅原 春雄
尾関 秀夫
大森 孝
Devid Cherry
Dilip Thomas
辻 暎一郎
小宮山義孝
前川 昭一
齋藤文志郎
西田幾久彦
大橋 一元
戸張 捷
Bertie To, Jr
中村 和
榎本 良夫
永田 澄雄
瀬戸島四郎
茂木 英治
岩田 幸一
木滑 和生

- 競技委員長
大橋 一元
- 競技副委員長
川田 太三
新井 安寿
織田 末雄
- 競技委員
古澤 功
菊地 行雄
安井 信之
三宮 藏
阿河 正昭
一瀬 智
福田 正資
平山 誠一
稲川 廣政
松井 義明
荻島 富雄
中島 敬夫
織戸總三郎
田中 克幸
矢野 隆男
山崎 滋男
吉野 統治
高橋啓二郎
紺野 保弘
野口 正三
佐野 公胤
鈴木 昭満
関根 宏一
田村 圭司
高橋 憲一
野村 惇
辻 暎一郎
村津 敬介
水野 正人
磯 富昭

- 競技委員
吉田 幹
岡本 昇
山中 信六
森下 實
前田 栄三
深沢 養三
久保 博光
上野 和夫
沢登 一元
小池 浩
長谷川強海
染谷 丈郎
小林 哲美
稲富精之助
山口 敬祥
安達 雅克
- 協力競技委員
矢部 英一
- 大会広報委員
土井 新吉

(財)日本ゴルフ協会/(社)日本ゴルフ場事業協会/(社)ゴルファーの緑化促進協力会/(社)日本パブリックゴルフ場事業協会/(社)日本ゴルフ用品協会/(社)日本ゴルフトーナメント振興協会/(社)日本プロゴルフ協会/(社)日本女子プロゴルフ協会/(社)全日本ゴルフ練習場連盟/日本ゴルフ関連団体協議会/全国ゴルフ会員権取引業団体連盟/ゴルフ場関連事業協同会/日本ゴルフコース設計者協会/日本ゴルフジャーナリスト協会/日本芝草研究開発機構/日本ゴルフツアー機構/全日本学生ゴルフ連盟/全国高等学校ゴルフ連盟/日本現況調査ゴルフフェーズ協会/東日本ゴルフ場支配人協議会/西日本ゴルフ場支配人協議会/日本シニアゴルフフェーズ協会/47都道府県ゴルフ連盟/協会/北海道ゴルフ連盟/東北ゴルフ連盟/関東ゴルフ連盟/中部ゴルフ連盟/関西ゴルフ連盟/四国ゴルフ連盟/九州ゴルフ連盟

主催 財団法人日本ゴルフ協会 アジア太平洋ゴルフ協会

後援 茨城ゴルフ倶楽部 テレビ朝日

特別協賛 キリンビール株式会社

特別協力 株式会社日本ダンロップ

協賛 テレビ提供各社

開催期日 平成12年4月20日(木)、21日(金)、22日(土)、23日(日)

開催場所 茨城ゴルフ倶楽部 東コース 7,078ヤード パー71

競技方法

- 4日間、72ホールストロークプレー。
- 第1、第2ラウンド36ホール終了後、アマチュア、プロフェッショナルを含め上位60位タイまでが第3、第4ラウンドに進出する。
- 第1位がタイの場合は、アマチュア、プロフェッショナルともサドンデス方式によりプレーオフを行う。

参加資格(参加人数 最大138名)

- 前年度キリンオープン優勝者および上位15位。
- 過去5年間のキリンオープン優勝者。
- 前年度キリンオープンローアマチュア。
- 本大会実行委員会が承認するAPGC加盟各国協会推薦のプロフェッショナル。(各国最大2名)
(ナショナルオープン優勝者およびそれに準ずる成績を有する者)
- 本大会実行委員会が承認するAPGC加盟各国協会推薦のアマチュア。(各国1名)
(ナショナルアマ優勝者およびそれに準ずる成績を有する者)
- 1998/99アジアツアー賞金ランキング上位5名。
- 1999/2000オーストラレジアツアー賞金ランキング上位5名。(但し、20位以内の者)
- 日本ゴルフツアー機構(JGTO)におけるシード選手。(JGTO出場優先順位①~⑥、⑨の者)
- 前年度日本オープンローアマチュア。
- 前年度日本アマチュア選手権優勝者および上位5位。
- 前年度日本学生、日本アマチュア・マッチプレー、日本ミッドアマチュア各選手権優勝者。
- 前年度ノムラカップ日本代表選手。
- 主催者特別承認者。

賞金総額：¥100,000,000

Total Purse: ¥100,000,000

Sponsor: Japan Golf Association Asia-Pacific Golf Confederation

Auspices: Ibaraki Golf Club Asahi National Broadcasting Co., Ltd.

Special Support: Kirin Brewery Co., Ltd.

Special Auspices: Dunlop Japan, Ltd.

Championship Schedule: April 20-23, 2000

Championship Site: Ibaraki Golf Club, East Course

Format:

- The Championship shall be 72-hole stroke play competition.
- After 36 holes, the original field maximum 138, will be cut to the low 60 and ties, including amateurs.
- In case of a tie or ties for the first place, or for the lowest amateur, there will be a sudden death play-off to determine the winner and the lowest amateur.

Eligibility: (Total size of field is maximum 138)

Exemption for 2000 Asia-Pacific Open Golf Championship (Kirin Open Golf) shall be granted to the followings.

- The top fifteen (15) finishers including ties of the 1999 Kirin Open Golf Championship.
- Winner of Kirin Open Golf Championship for the last five years.
- The low amateur of the 1999 Kirin Open Golf Championship.
- A maximum of two (2) Professional players nominated by their own National Golf Association / Union / Federation who is a member of Asia Pacific Golf Confederation.
- One amateur player nominated by his own National Golf Association / Union / Federation who is a member of Asia Pacific Golf Confederation.
- The top five (5) money leaders on the 1998/99 Asian Tour official money list.
- The five (5) players in the top twenty (20) money leaders on the 1999/2000 Australasia PGA Tour official money list.
- Exempt players on the 2000 Japan Golf Tour. (Category 1-6,9)
- The low amateur of the 1999 Japan Open Golf Championship.
- The top five (5) finishers including ties of the 1999 Japan Amateur Golf Championship.
- Winner of the 1999 Japan Collegiate, Amateur Match Play, Mid Amateur Golf Championship.
- All playing members of the Japan Team in 1999 Nomura Cup.
- Sponsor Exemption.

1	¥20,000,000	31	¥750,000
2	11,000,000	32	730,000
3	7,750,000	33	710,000
4	5,100,000	34	690,000
5	4,200,000	35	670,000
6	3,400,000	36	650,000
7	2,870,000	37	630,000
8	2,610,000	38	610,000
9	2,245,000	39	590,000
10	1,980,000	40	570,000
11	1,700,000	41	560,000
12	1,560,000	42	550,000
13	1,420,000	43	540,000
14	1,320,000	44	530,000
15	1,220,000	45	520,000
16	1,170,000	46	510,000
17	1,120,000	47	500,000
18	1,070,000	48	490,000
19	1,020,000	49	480,000
20	970,000	50	470,000
21	950,000	51	460,000
22	921,000	52	450,000
23	901,000	53	440,000
24	881,000	54	430,000
25	870,000	55	420,000
26	850,000	56	410,000
27	830,000	57	400,000
28	810,000	58	390,000
29	790,000	59	380,000
30	770,000	60	370,000

61位以下の者は、¥1,802,000を均等割。(ただし、1人¥360,000を上限とする。)
For 61st position and below:
¥1,802,000 shall be broken equally and given to all professionals who finished final round. (It shall not exceed ¥360,000)

終盤の苦境を乗り越えて、 韓国王者の崔京周がV。 同時にアジア総合優勝も決める。

2年ぶりの西コース開催。3日目が雨で中止のために54ホールに短縮されたが、上位陣に各国の選手が名を連ね、まさに国際トーナメントに相応しい展開となった。その中で、最後は韓国の崔京周とインドのJ・シンの一騎討ちに。47回に及ぶ歴史の中で、6回目のプレーオフ決着となった。

1st

単独トップに韓国王者の崔京周

快晴、微風、絶好のコンディションのもと、アジア19の国と地域から集まったトップゴルファー131選手(内アマチュア16選手)がスタート。

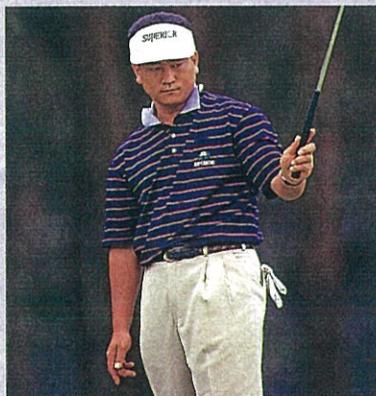
初日からバーディ合戦の展開となり、その中で韓国の崔京周が6バーディの65で単独トップに立った。

崔は自国で通算5勝、96、97年の韓国プロツアーの賞金王でもある。「でも韓国で一番になっても、世界では認めてくれない」と、97年にはアジアプロツアーに、98年からはアジアツアーにも参戦していた。日本でのプレーは昨年のこの大会以来2回目。

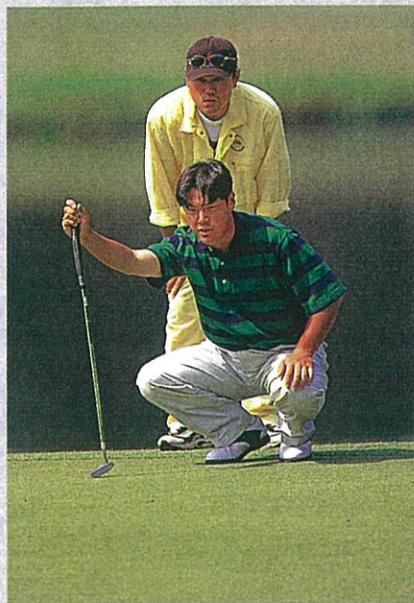
「グリーンがゴツゴツしているアジアの他の大会と比べて、この大会はスムーズでとても素晴らしい。だからライン通りにパッティングできたよ」と、好ラウンドの要因を語っていた。

地元細川和彦が 2位Tの好ラウンド

その崔に1打差で細川和彦。地元茨城県出身で、父親が大会会場の茨城GCのメンバーだったことから、「初ラウンドもここで、以来ずっとお世話になっている。だからこそ、好スコアでラウンド出来て嬉しかった」と、言う。もっとも、「良く知っているだけに、このコースの持つ怖さ



初日、22パットとパッティングも絶好調、ベストスコアの65をマークし、単独トップ発進は韓国の崔京周(写真上)茨城出身の細川和彦は地元の声援に応え初日首位に1打差と好発進。(写真下)



初日2位タイの今野康晴は翌週の中日クラウンズで見事ツアー初Vを飾った。

も身に沁みている」と、2日目以降に気を引き締めていた。

細川と同スコアの2位Tに今野康晴、さらに1打差で前週優勝の尾崎直道が付いていた。マスターズ帰りのジャンボ尾崎はトップに4打差の7位T、「思い切りバットが打ち切れた。マスターズ(予選落ち)の後には上位選手のスイングをテレビ観戦。スイングのいいヒントをもらったよ」と、上機嫌だった。

同じくマスターズ帰りの丸山茂樹は、対照的に1オーバー72の40位T。

アジア大会金メダリストの近藤、 アクシデントにもめげずに16位T

ローアマチュア争いは、2アンダー69で7位Tと健闘した和田雅英が一歩リードした。

前年のアジア大会金メダリストの近藤智弘は、前日愛車の盗難にあい、クラブやボールなどゴルフ道具一式を紛失するアクシデントに見舞われたが、急遽用意されたクラブセットで奮起。1アンダー70でアマチュアでは2位T、全体でも16位Tに粘り込んだ。

またジャンボとのラウンドで注目された、日本アマ2勝の星野英正は3オーバー74で73位と出遅れてしまった。宮瀬博文が背中と首の痛みから、真板潔が左足首痛のため、それぞれ途中棄権した。

2nd

崔、トップをがっちりキープして 独走態勢を固める

午後から小雨がバラつき始めた茨城GC、前日トップの崔京周が順調にスコアを縮めた。4バーディ1ボギーの68で、通算9アンダー。2位以下に4打差を付けて、早々と独走態勢に入った。

「雨が予想されていたためか、ピンポジションが難しかった」と、ラウンドを振り返る崔だが、その難しいグリーンを最も的確にこなした選手が崔だった。

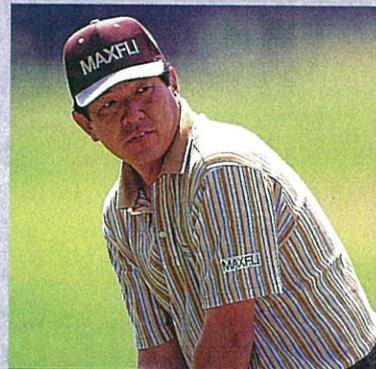
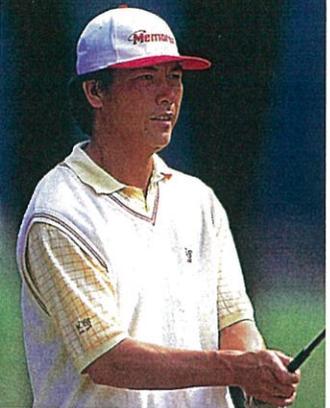
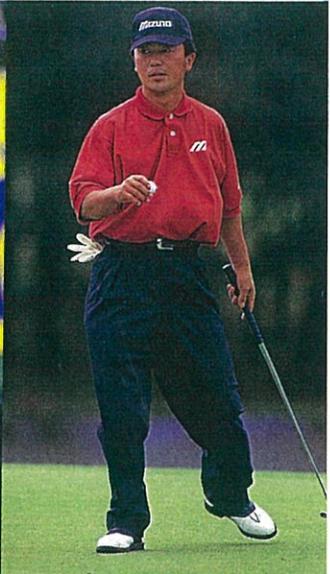
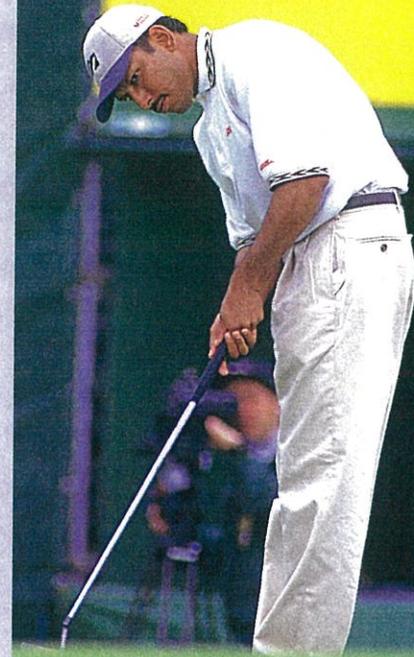
「あと2日間、今まで通りのスローテンポでゴルフできたらチャンス」と、優勝への青写真を描いていた。

アジアツアー炸裂、優勝争いは韓・印・中・日の争いに

大混戦となったのは2位以下の争い。通算5アンダーにジープ・ミルカ・シン(インド)、張連偉(中国)、米山剛、加瀬秀樹、今野、4アンダーの7位Tグループにはチェダー(米国)と共にジャンボ、ジョーの尾崎兄弟。中でも注目を集めたのは、トップの崔と共に日本勢と優勝を争うことになったシンと張。崔も含め、いずれもアジアツアーの強者だ。

この日4アンダー67でラウンドしたシンは、インド出身者としては初めて欧州ツアーの出場権を獲得した選手。「前日は首を寝違えてしまったが、今日は痛みも引いた。天候は崩れたが、自分自身はいいコンディションでプレーできた。今後この調子が続けば、いい試合ができると思う」と、崔への挑戦を誓っていた。一方の張も67でラウンド。こちらも欧州ツアーへ挑戦中の“渡り鳥”プロ。アマ時代には、広島でのアジア大会(91年)での銀メダリスト。困みにこの時の金メダリストは横尾要である。「今日はアイアンショットが良かった。欧州ツアーと比べても、日本のツアーコースは難易度が高いと思う。でも時差はないし、食事も美味しく、日本は大好きです。」

小雨の中、4アンダー67をマークしたジープ・ミルカ・シン(インド)(写真左)と張連偉(中国)(写真右下)。この年3勝を挙げる米山剛(写真右上)。



前週のつるやオープン3日目、エースを奪うなど64のコースレコードを記録。この週も波に乗る加瀬秀樹(写真上)。マスターズ帰りにバットに苦しんだ丸山茂樹(写真下)

丸山、米ツアー後遺症で、まさかの予選落ちを喫す

強豪アジア勢を追う形となった日本勢の先頭を走る加瀬は、「東コースと比べて西コースは相性がいい。距離が少し短い分、セカンドが楽になるからね。ただ、グリーンは小さくて狙い所が難しい。決勝ラウンドでは優勝を意識しないで自然体でプレーするよ」と、闘志を胸に秘めての戦いだ。

一方で、巻き返しが期待された丸山は前日の35パットに続き2日目も34パットと詰めの甘さがスコアに響き、通算9オーバーの111位Tで予選落ち。

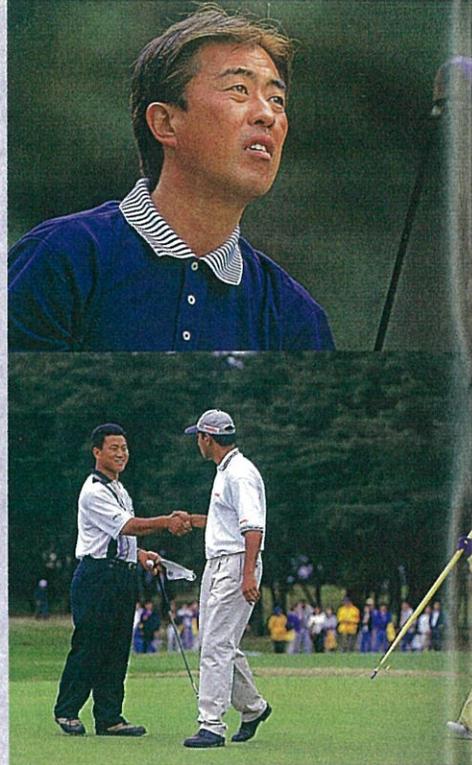
「日本に帰ってきたら、どうもボールが飛んでくれない。距離感が合わないんだ。これから頭を切り換えるよ」と、3~4月の米ツアー後遺症に悩まされているようすだった。

通算3オーバー59位Tの68選手(内アマチュア4選手)が第3ラウンドへ進出。

最終日67通算7アンダーで3位タイに入った高見和宏(写真右上)。プレーオフを制して握手を交わす崔京周とJ.M.シン(写真右下)。



前週のつるやオープンで2年ぶりの優勝を果たした尾崎直道は、マスターズ帰りの兄ジャンボとのラウンド。(写真上)



プレッシャーに耐え、海外での初優勝を飾った崔京周(韓国)はアジアツアーの総合優勝にも輝いた(写真右、右下)。

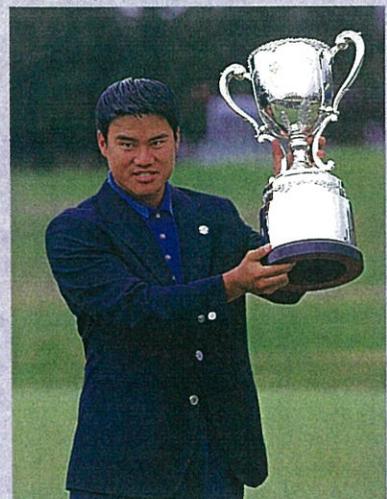


3rd

前日からの続く降雨のため、11時30分に中止決定。

この結果、後半は1ラウンドのみで3日間54ホールで争われることになった。賞金額も25%減額され優勝賞金は1500万円に修正された。

ローアマチュアに輝いた宮里優作は若干18歳。'98年日本ジュニア、関西アマにも優勝するアマチュアの逸材だ。



Final

快調に飛ばす崔に、追いつがるシンの一騎討ちに

雨も上がり、曇り、微風のコンディション。水を含んだグリーンは打球が止まりやすく、好スコアの期待が持たれたが、競技中止となった前日、「どんな状況でも自分のテンポを崩さずにプレーすれば、必ずいい結果が出るはず」と語っていた崔が3、4番の連続バーディで早々と飛び出す。この時点で2位のシンに6打の大差を付けた。勝負の興味もこれまでか、と思われたが、ラウンドが進むにつれ崔に優勝の重圧が襲いかかる。崔を追う一番手のシンは、1番こそボギーでスタートしたものの、その後は堅調なゴルフを展開。3、8番でバーディを奪ってハーフターン。後半も10、12番で立て続けにバーディ奪取。

本国以外で初優勝を狙う崔を襲った勝利への重圧

ジワジワとその差を縮められた崔は、遂に14番でボギー。シンとは2打差。「あのボギーで、途端に自分がコントロ

ール出来なくなった。過度に優勝を意識してしまった」と、崔は振り返る。実は韓国ツアーで5勝、賞金王に2度輝く実績を持った崔だが、アジアを含め、本国以外での優勝経験が無かったのだ。「今まで何度も優勝を逃してきた。だからこそ、今度こそは、と言いつつも聞かせながらのラウンドだった」という。15番からは連続1パットで凌ぎながらも最終ホールでは、2メートルのパーパットを残してしまった。外せば逆転負けのパット。崔は慎重に、かつこの日前半までのリズムを取り戻してパッティング。見事にカップに放り込み、シンと9アンダーで並んでプレーオフへ。

崔が、海外初優勝、そして総合優勝も手中に収めた

展開を読むなら4打差を追い付いたシンに有利と察せられたが、ピンチを潜り抜けてきた崔が勢いを取り戻した。プレーオフは18番(パー4)、シンはティショットをドライバーで左ラフに外し、セカンドもグリーン右のバンカーに外して

しまった。一方の崔はスプーンで的確にフェアウエーをキープしてピン奥4メートルに2オン。シンのバンカーショットをピンを6メートルオーバー、パーバットも外して万事休す。

確実に2パットで収めた崔が、見事に海外初優勝を成し遂げ、同時にアジアツアー総合優勝も決めてしまった。「言葉で現せないほど嬉しい。神と家族に感謝したい」敬虔なクリスチャンである崔は、最後まで謙虚に自らの勝利を語っていた。

なお、日本勢では、崔らと2打差の7アンダー3位Tに並んだ高見和宏、尾崎直道、米山剛の3選手が最高位を分けるのが精一杯。1オーバー34位の宮里優作(東北福祉大1年)がローアマチュアに輝いた。

また、競技が54ホールに短縮されたために賞金総額(1億円)を75%に減額したが、特別協賛のキリンビールは、減額分の25%(2500万円)を基に、JGAとジュニア育成プログラムを開発すると発表した。

1999キリンオープン 4月22日~25日 茨城G.C.・西コース 6975y パー71

優勝	崔京周	KOR	204 (65,68,71)	34	R.クエリヨ	PHI	214 (71,73,70)
2	J.M.シン	IND	204 (70,67,67)		美 旭 淳	KOR	214 (72,71,71)
3	高見 和宏	JAN	206 (70,69,67)		※宮里 優作	JAN	214 (70,71,73)
	尾崎 直道	JAN	206 (67,71,68)		C.スベンス	AUS	214 (69,71,74)
	米山 剛	JAN	206 (69,68,69)		S.ジン	AUS	214 (68,72,74)
6	渡辺 司	JAN	208 (69,72,67)		佐藤 信人	JAN	214 (73,66,75)
	T.ブライス	AUS	208 (69,70,69)		D.チャンド	FI	214 (70,69,75)
	今野 康晴	JAN	208 (66,71,71)	42	D.イシイ	USA	215 (74,71,70)
9	P.テラハイネン	USA	209 (70,69,70)		原田 三夫	JAN	215 (74,70,71)
10	伊沢 利光	JAN	210 (74,69,67)		M.ケイン	AUS	215 (73,71,71)
	D.ウィルソン	USA	210 (72,71,67)		藤田 寛之	JAN	215 (71,73,71)
	B.ジョーブ	USA	210 (71,71,68)		朴 南 信	JAN	215 (69,73,73)
	尾崎 健夫	JAN	210 (72,68,70)		井戸木鴻樹	JAN	215 (71,70,74)
	尾崎 将司	JAN	210 (69,69,72)	48	T.スリロット	THA	216 (74,71,71)
15	谷口 徹	JAN	211 (71,70,70)		F.ミノザ	PHI	216 (72,73,71)
	横尾 要	JAN	211 (70,71,70)		E.ミークス	USA	216 (75,68,73)
	東 聡	JAN	211 (70,70,71)		横田 真一	JAN	216 (73,70,73)
	汪 徳 昌	JAN	211 (70,70,71)		T.ストロブ	USA	216 (72,71,73)
	片山 晋興	JAN	211 (69,70,72)		桑原 将一	JAN	216 (72,71,73)
20	D.スミール	NZ	212 (74,69,69)		S.レイコック	AUS	216 (71,72,73)
	久保谷健一	JAN	212 (71,72,69)		合田 洋	JAN	216 (72,69,75)
	P.シニア	AUS	212 (70,71,71)		飯合 肇	JAN	216 (69,72,75)
	細川 和彦	JAN	212 (66,74,72)	57	P.マックイニー	AUS	217 (73,72,72)
	張 連 偉	JAN	212 (70,67,75)		D.ブーレー	HK	217 (72,71,74)
	加瀬 秀樹	JAN	212 (68,69,75)	59	鈴木 亨	JAN	218 (75,70,73)
	川岸 良兼	JAN	213 (74,71,68)		A.アトワル	IND	218 (75,69,74)
	陳 志 忠	TPE	213 (73,72,68)		葉 彰 廷	TPE	218 (71,73,74)
	J.ラトリッジ	CAN	213 (72,73,68)		※金 昊 涉	KOR	218 (72,71,75)
	I.レガット	CAN	213 (74,70,69)	63	※金 亨 泰	KOR	219 (75,69,75)
	小山内 護	JAN	213 (70,73,70)		倉本 昌弘	JAN	219 (72,72,75)
	K.H.ハン	MYR	213 (71,71,71)		佐々木久行	JAN	219 (72,70,77)
	P.チャワリット	THA	213 (70,69,74)		金 鍾 德	KOR	219 (74,67,78)
	M.チェダー	USA	213 (71,67,75)	67	芹澤 信雄	JAN	220 (72,73,75)
34	林 吉 祥	TPE	214 (75,70,69)	68	※和田 雅英	JAN	223 (69,74,80)

※印はアマチュア

19の国と地域から、 選りすぐられた精鋭が、 茨城GC東コースに集結。

アジア・オセアニア各地のゴルフ連盟や協会を中心に、
選りすぐられたアマ・プロの精鋭が125名。
アジア太平洋地区を代表する
国際オープン競技に相応しいメンバーが勢ぞろいした。
メンバー構成を見ても、約半数は、
キリンオープンの覇権を目指しての来日となった。
日本選手はアマ・プロ合計63選手。
2000年の記念大会。
生まれ変わった年だからこそ、負けられない。
その名を永遠に記録に残すゴルファーは、
いったい誰なのか?!



アマチュア

宮里 優作
Yusaku Miyazato

生年月日:1980年6月19日
1998日本ジュニアゴルフ選手権競技 優勝
1999キリンオープンローアマチュア



アマチュア

中島 雅生
Masao Nakajima

生年月日:1979年11月18日
1999日本学生ゴルフ選手権競技 2位
1999日本オープンローアマチュア 37位タイ



尾崎 将司
Jumbo Ozaki

生年月日:1947年1月24日
プロ入り:1970年/優勝:110回
1999賞金ランク:6位(¥83,517,969)



中嶋 常幸
Tommy Nakajima

生年月日:1954年10月20日
プロ入り:1975年/優勝:56回
1999賞金ランク:81位(¥9,585,561)



倉本 昌弘
Masay Kuramoto

生年月日:1955年9月9日
プロ入り:1981年/優勝:32回
1999賞金ランク:53位(¥20,005,409)



杉原 輝雄
Teruo Sugihara

生年月日:1937年6月14日
プロ入り:1957年/優勝:54回
1999賞金ランク:160位(¥1,248,033)



アマチュア

中島 常実
Tsunemi Nakajima

生年月日:1955年10月6日
1999関東アマチュアゴルフ選手権競技 2位
1999日本アマチュアゴルフ選手権競技 4位



アマチュア

小峰 尚宏
Naohiro Komino

生年月日:1972年2月1日
1999四国アマチュアゴルフ選手権競技 優勝
1999日本アマチュアゴルフ選手権競技 5位



細川 和彦
Kazuhiko Hosokawa

生年月日:1970年12月28日
プロ入り:1993年/優勝:8回
1999賞金ランク:2位(¥129,058,283)



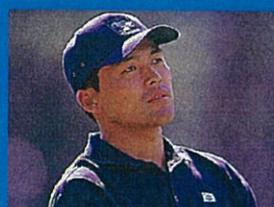
伊沢 利光
Toshimitsu Izawa

生年月日:1968年3月2日
プロ入り:1989年/優勝:4回
1999賞金ランク:4位(¥110,927,044)



米山 剛
Tsuyoshi Yoneyama

生年月日:1965年3月15日
プロ入り:1987年/優勝:3回
1999賞金ランク:5位(¥106,872,033)



手嶋 多一
Taichi Teshima

生年月日:1968年10月16日
プロ入り:1993年/優勝:1回
1999賞金ランク:7位(¥81,901,760)



アマチュア

太田 直己
Naomi Oota

生年月日:1979年4月24日
1999日本学生ゴルフ選手権競技 優勝



アマチュア

阪田 哲男
Tetsuo Sakata

生年月日:1949年8月17日
1999日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 優勝



片山 晋呉
Shingo Katayama

生年月日:1973年1月31日
プロ入り:1995年/優勝:2回
1999賞金ランク:8位(¥76,114,008)



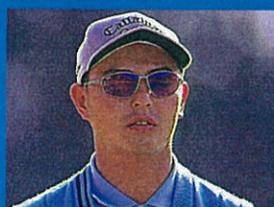
横尾 要
Kaname Yokoo

生年月日:1972年7月24日
プロ入り:1995年/優勝:2回
1999賞金ランク:9位(¥73,465,103)



川岸 良兼
Ryoken Kawagishi

生年月日:1966年12月6日
プロ入り:1989年/優勝:6回
1999賞金ランク:10位(¥72,829,630)



谷口 徹
Toru Taniguchi

生年月日:1968年2月10日
プロ入り:1992年/優勝:2回
1999賞金ランク:11位(¥69,837,799)



アマチュア

和田 博
Hiroshi Wada

生年月日:1962年6月16日
1999日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 2位
1999日本アマチュアゴルフ選手権競技 5位



アマチュア

谷原 秀人
Hideto Tanihara

生年月日:1978年11月16日
1999中国アマチュアゴルフ選手権競技 優勝
1999日本オープンゴルフ選手権競技 61位タイ



アマチュア

渡邊 征伸
Yukinobu Watanabe

生年月日:1982年1月20日
1999日本ジュニアゴルフ選手権競技 優勝
1999東北アマチュアゴルフ選手権競技 2位



アマチュア

張 宏璋
Hong Wei Chang 台湾

生年月日:1982年8月3日
2000中国ユースカップ 優勝



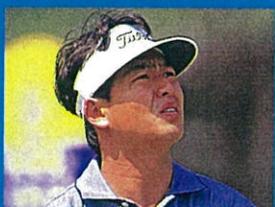
田中 秀道
Hidemichi Tanaka

生年月日:1971年3月29日
プロ入り:1991年/優勝:9回
1999賞金ランク:12位(¥68,819,716)



宮瀬 博文
Hirotsumi Miyano

生年月日:1971年4月11日
プロ入り:1989年/優勝:3回
1999賞金ランク:13位(¥64,795,851)



桧垣 繁正
Shigemasa Higaki

生年月日:1971年10月17日
プロ入り:1994年/優勝:2回
1999賞金ランク:14位(¥61,604,400)



桑原 克典
Katsunori Kuwahara

生年月日:1969年4月4日
プロ入り:1992年/優勝:4回
1999賞金ランク:15位(¥59,461,521)



アマチュア

プロム・ミーサワット
Prom Meesawat タイ

生年月日:1984年7月21日
1999シンガポールドアマスターズ 優勝
1999エバーグリーン・ジュニアオープン 優勝



アマチュア

ピセント・クア
Vincent Khua シンガポール

生年月日:1978年5月25日



アマチュア

スコット・ガーディナー
Scott Gardiner オーストラリア

生年月日:1976年3月22日
2000オーストラリアン・マスターズ 7位タイ
1999ポートフィリップカップ 優勝



アマチュア

ロデリック・デレイシー・スタントン
Roderick Delaney Staunton アイルランド

生年月日:1982年8月10日
2000香港アマチュアゴルフチャンピオンシップ 優勝



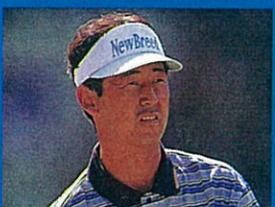
飯合 肇
Hajime Meshiai

生年月日:1954年3月12日
プロ入り:1978年/優勝:14回
1999賞金ランク:17位(¥55,724,333)



小山内 護
Mamoru Osanai

生年月日:1970年6月19日
プロ入り:1996年/優勝:2回
1999賞金ランク:18位(¥48,581,275)



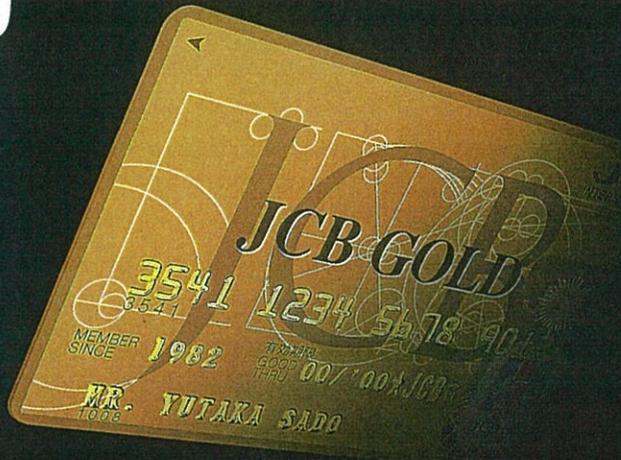
渡辺 司
Tsukasa Watanabe

生年月日:1957年2月16日
プロ入り:1981年/優勝:3回
1999賞金ランク:19位(¥47,999,950)



今野 康晴
Yasuharu Imano

生年月日:1973年5月28日
プロ入り:1996年/優勝:1回
1999賞金ランク:20位(¥47,634,321)



自分がつくった世界から、ひとつ上の世界へ上がっていく。
そこに、生きることの喜びがあると思う。
まだまだ昇る人へ。
JCBゴールドカード

指揮者 佐渡裕 38歳

独学で指揮を始め、25歳夏、アメリカの音楽祭のオーディションに合格。巨匠バーンスタインに師事。27歳の時、パリの国際指揮者コンクールで優勝しデビュー。32歳で仏コンセルヴァトワール管弦楽団の首席指揮者に就任。今、パリ音楽界で注目のマエストロである。

いまの自分に満足することなく、これからの自分を磨き上げていく。
JCBゴールドカードは、そんな大人のさらなる夢や生き方を応援します。

- お電話1本で航空券やJR券、ゴルフ場のエントリー、有名ホテルのご宿泊など、あなたに代わってゴールドデスクがお手配する「リザーベーションサービス」
- JCBゴールドでのお買い物品の破損や盗難時の損害補償、旅行中にご病気、ケガをした場合の旅行傷害保険など、あなたを支える「ライフサポート」
- 名門コースでのゴルフコンペやN響メンバーによるオリジナルコンサートなど、JCBでしか味わえない体験ができる「メンバーズエンターテイメント」
- 全国から選りすぐった加盟店の旬の話題をお届けする「選りすぐり情報」
- 空港で出発前にゆったりとおくつろぎいただける「JCB空港ラウンジサービス」

JCB GOLD

〈お問い合わせ〉 JCBインフォメーションセンター 9:00AM~5:00PM 日・祝休 0120-015-870 (入会ご案内専用) *電話番号は、お間違のないようおかけください。

携帯電話からはこちらへ 東京 0422-76-1700 大阪 06-6941-7900 福岡 092-712-4450 札幌 011-271-1411

JCBホームページ <http://www.jcb.co.jp/>



The Players 選手紹介



星野 英正
Hidemasa Hoshino

生年月日:1977年9月19日
プロ入り:2000年
'98,'99日本アマチュアゴルフ選手権競技 優勝



近藤 智弘
Tomohiro Kondo

生年月日:1977年6月17日
プロ入り:2000年
'95日本アマチュアマッチプレーゴルフ選手権競技 優勝



東 聡
Satoshi Higashi

生年月日:1960年11月16日
プロ入り:1983年/優勝:9回
1999賞金ランク:22位 (¥46,175,166)



奥田 靖己
Seiki Okuda

生年月日:1960年4月1日
プロ入り:1984年/優勝:9回
1999賞金ランク:23位 (¥45,829,210)



深堀 圭一郎
Keiichiro Fukubori

生年月日:1968年10月9日
プロ入り:1992年/優勝:3回
1999賞金ランク:25位 (¥42,908,810)



原田 三夫
Mitsuo Harada

生年月日:1964年1月15日
プロ入り:1988年/優勝:2回
1999賞金ランク:26位 (¥40,949,500)



鈴木 亨
Toru Suzuki

生年月日:1966年5月28日
プロ入り:1989年/優勝:6回
1999賞金ランク:28位 (¥38,517,236)



加瀬 秀樹
Hideki Kase

生年月日:1959年12月1日
プロ入り:1983年/優勝:10回
1999賞金ランク:29位 (¥38,295,382)



尾崎 健夫
Jet Ozaki

生年月日:1954年1月9日
プロ入り:1975年/優勝:15回
1999賞金ランク:31位 (¥36,443,790)



河村 雅之
Masayuki Kawamura

生年月日:1967年3月15日
プロ入り:1986年/優勝:5回
1999賞金ランク:32位 (¥35,406,423)



湯原 信光
Nobumitsu Yuhara

生年月日:1957年8月14日
プロ入り:1980年/優勝:6回
1999賞金ランク:33位 (¥33,977,034)



金子 柱憲
Yushinori Kanaoka

生年月日:1961年3月4日
プロ入り:1983年/優勝:8回
1999賞金ランク:35位 (¥27,651,032)



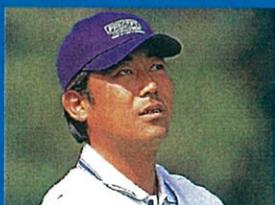
藤田 寛之
Hiroyuki Fujita

生年月日:1969年6月16日
プロ入り:1992年/優勝:2回
1999賞金ランク:36位 (¥27,320,178)



溝口 英二
Eiji Mizoguchi

生年月日:1964年12月7日
プロ入り:1989年/優勝:3回
1999賞金ランク:38位 (¥26,263,128)



佐々木久行
Hisayuki Sasaki

生年月日:1964年11月27日
プロ入り:1986年/優勝:5回
1999賞金ランク:39位 (¥26,233,719)



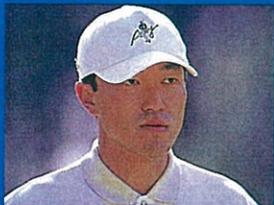
杉本 周作
Shusaku Sugimoto

生年月日:1973年7月27日
プロ入り:1996年/優勝:2回
1999賞金ランク:42位 (¥25,529,024)



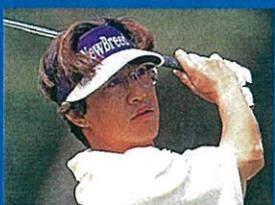
高見 和宏
Kazuhiro Takami

生年月日:1959年12月11日
プロ入り:1985年/優勝:5回
1999賞金ランク:43位 (¥24,258,070)



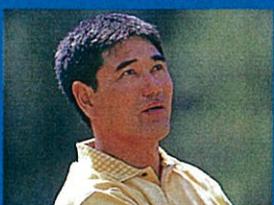
佐藤 信人
Nobuhito Sato

生年月日:1970年3月12日
プロ入り:1993年/優勝:2回
1999賞金ランク:46位 (¥23,083,803)



小達 敏昭
Toshiaki Odota

生年月日:1968年1月8日
プロ入り:1991年/優勝:1回
1999賞金ランク:49位 (¥21,176,374)



友利 勝良
Katsuyoshi Tomori

生年月日:1954年10月25日
プロ入り:1983年/優勝:8回
1999賞金ランク:51位 (¥20,525,300)

麒麟 淡麗(生)

きりん たんれい

発泡酒



キラッとキラッと、キラッと味。

新鮮な明日へ
KIRIN

うまい!キリン

飲酒は20歳になってから。あきかんはリサイクル。
ホームページアドレス <http://www.kirin.co.jp> キリンビール株式会社



The Players 選手紹介



横田 真一
Shinichi Yokota

生年月日:1972年2月6日
プロ入り:1994年/優勝:1回
1999賞金ランク:55位(¥19,245,925)



野上 貴夫
Takao Nogami

生年月日:1971年7月10日
プロ入り:1996年
1999賞金ランク:58位(¥17,565,315)



白浜 育男
Ikuo Shirahama

生年月日:1958年12月20日
プロ入り:1979年/優勝:4回
1999賞金ランク:59位(¥17,213,733)



芹澤 信雄
Nobuo Sorizawa

生年月日:1959年11月10日
プロ入り:1982年/優勝:13回
1999賞金ランク:60位(¥16,387,064)



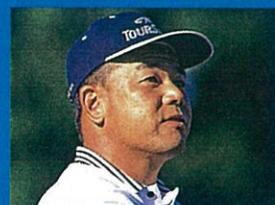
真板 潔
Kiyoshi Maia

生年月日:1959年12月17日
プロ入り:1985年/優勝:12回
1999賞金ランク:61位(¥16,297,650)



室田 淳
Kiyoshi Murota

生年月日:1955年7月26日
プロ入り:1982年/優勝:8回
1999賞金ランク:64位(¥13,582,661)



井田 安則
Yasunori Ida

生年月日:1964年12月5日
プロ入り:1988年
1999賞金ランク:65位(¥13,532,591)



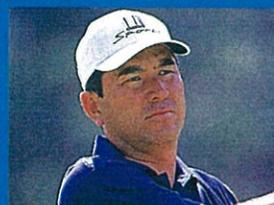
兼本 貴司
Takashi Kanamoto

生年月日:1970年12月12日
プロ入り:1993年
1999賞金ランク:68位(¥12,931,650)



日下部光隆
Mitsunaka Kusakabe

生年月日:1968年11月10日
プロ入り:1991年/優勝:4回
1999賞金ランク:76位(¥11,062,282)



水巻 善典
Yoshinori Mizumaki

生年月日:1958年8月27日
プロ入り:1984年/優勝:7回
1999賞金ランク:80位(¥9,632,615)



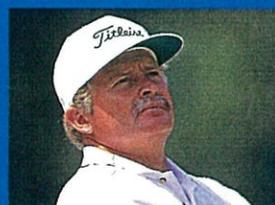
久保谷健一
Kenichi Kuboya

生年月日:1972年3月11日
プロ入り:1995年/優勝:2回
1999賞金ランク:95位(¥7,698,557)



宮本 勝昌
Katsumasa Miyamoto

生年月日:1972年8月28日
プロ入り:1995年/優勝:4回
1999賞金ランク:102位(¥6,019,000)



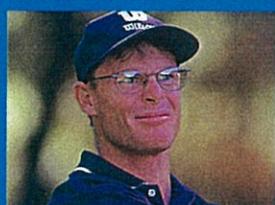
ピーター・シニア
Peter Senior - オーストラリア

生年月日:1959年7月31日
プロ入り:1978年/優勝:3回
1999賞金ランク:143位(¥2,042,000)



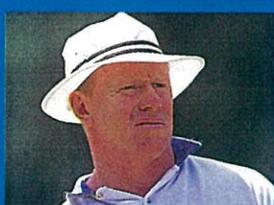
リチャード・バックウェル
Richard Backwell - オーストラリア

生年月日:1963年12月28日
プロ入り:1990年/優勝:1回
1999賞金ランク:44位(¥24,173,165)



スティーブン・コンラン
Steven Conran - オーストラリア

生年月日:1966年5月12日
プロ入り:1990年
1999賞金ランク:56位(¥18,876,796)



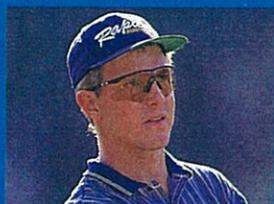
テリー・プライス
Terry Price - オーストラリア

生年月日:1960年12月27日
プロ入り:1976年/'99キリンオープン6位タイ
1999賞金ランク:99位(¥6,604,380)



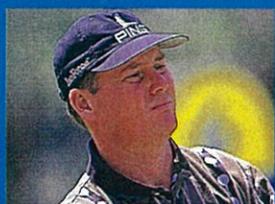
ブレット・ラムフォード
Brett Rumford - オーストラリア

生年月日:1975年3月25日
プロ入り:2000年/優勝:1999オーストラリアプレーヤーズ選手権



スコット・レイコック
Scott Laycock - オーストラリア

生年月日:1971年9月15日
プロ入り:1994年
1999賞金ランク:237位(¥217,500)



トッド・ハミルトン
Todd Hamilton - 米国

生年月日:1965年10月18日
プロ入り:1987年/優勝:7回
1999賞金ランク:47位(¥22,975,600)



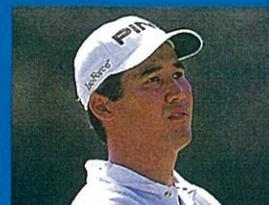
デービッド・イシイ
David Ishii

生年月日:1955年7月26日
プロ入り:1979年/優勝:19回
1999賞金ランク:24位(¥43,101,875)

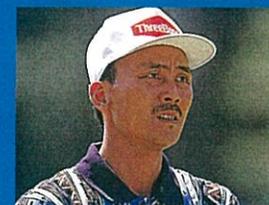
The Players



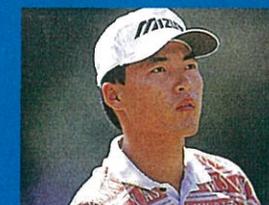
ピーター・テラベイネン
Peter Teravainen・米国
生年月日:1956年4月23日
プロ入り:1979年/優勝:2回
1999賞金ランク:89位(¥8,607,500)



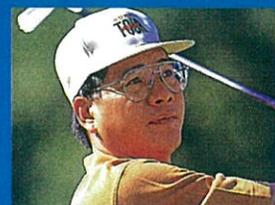
ディーン・ウィルソン
Dean Wilson・米国
生年月日:1969年12月17日プロ入り:1992年
'99キリンオープン10位タイ
1999賞金ランク:151位(¥1,650,000)



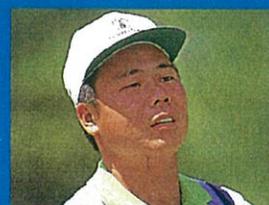
陳志忠
Tze-Chung Chen・台湾
生年月日:1958年6月24日
プロ入り:1980年/優勝:6回
1999賞金ランク:45位(¥23,236,253)



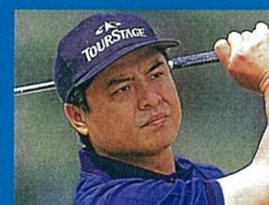
洪家煜
Chia-yuh Hong・台湾
生年月日:1974年4月28日
1998日本アマチュアゴルフ 4位タイ
1997日本アマチュアゴルフ 優勝



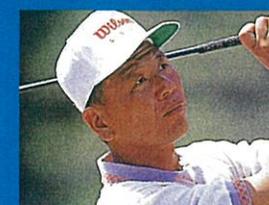
謝錦昇
Chia-Sheng Hsieh・台湾
生年月日:1963年2月5日
プロ入り:1991年
1999賞金ランク:66位(¥13,127,000)



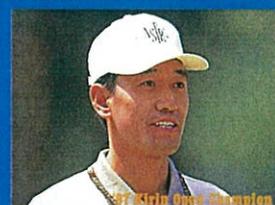
林根基
Kang-Chi Lin・台湾
生年月日:1966年7月1日
プロ入り:1994年
1999賞金ランク:50位(¥20,810,562)



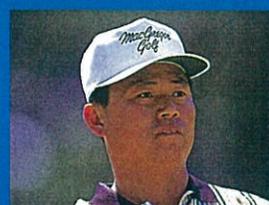
葉彰廷
Chang-Ting Yeh・台湾
生年月日:1967年12月5日
プロ入り:1993年/優勝:2回
1999賞金ランク:37位(¥27,118,079)



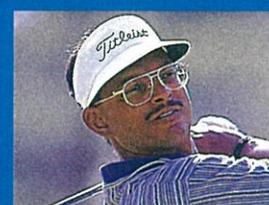
汪徳昌
Ter-Chang Wang・台湾
生年月日:1962年8月9日
プロ入り:1985年
1999賞金ランク:166位(¥1,050,000)



キム・ジョンダク
Jong-Duck Kim・韓国
生年月日:1961年6月4日
プロ入り:1985年/優勝:13回
1999賞金ランク:16位(¥56,023,333)



シン・ヨンジン
Yong-Ju Shin・韓国
生年月日:1964年9月4日
1999キリンオープン出場



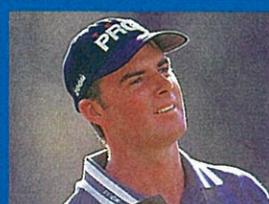
マダサミー・ムルギア
Madasamy Murugiah・シンガポール
生年月日:1964年5月6日
プロ入り:1987年



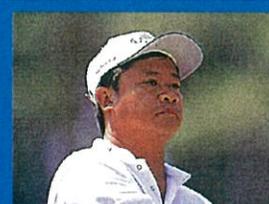
張連偉
Liang-Wei Zhang・中国
生年月日:1965年5月2日
プロ入り:1994年
1999キリンオープン 20位タイ



梁文冲
Wen-Chong Liang・中国
生年月日:1978年6月2日
プロ入り:1999年/96,97,98中国アマ 優勝
99中国PGAツアー4勝、賞金王



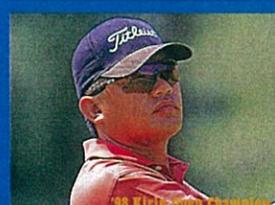
デービッド・スミール
David Small・ニュージーランド
生年月日:1970年5月20日
プロ入り:1992年
1999賞金ランク:40位(¥25,765,618)



チ・ラ・ハン
Kyi Hla Han・ミャンマー
生年月日:1961年2月13日
プロ入り:1980年



ゾー・モウ
Zaw Moe・ミャンマー
生年月日:1967年6月27日
プロ入り:1993年
1999賞金ランク:54位(¥19,350,584)



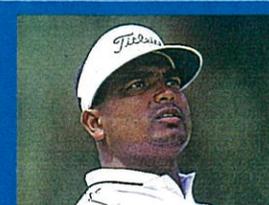
フランキー・ミノザ
Frankie Minoza・フィリピン
生年月日:1959年12月29日
プロ入り:1982年/優勝:5回
1999賞金ランク:34位(¥28,679,011)



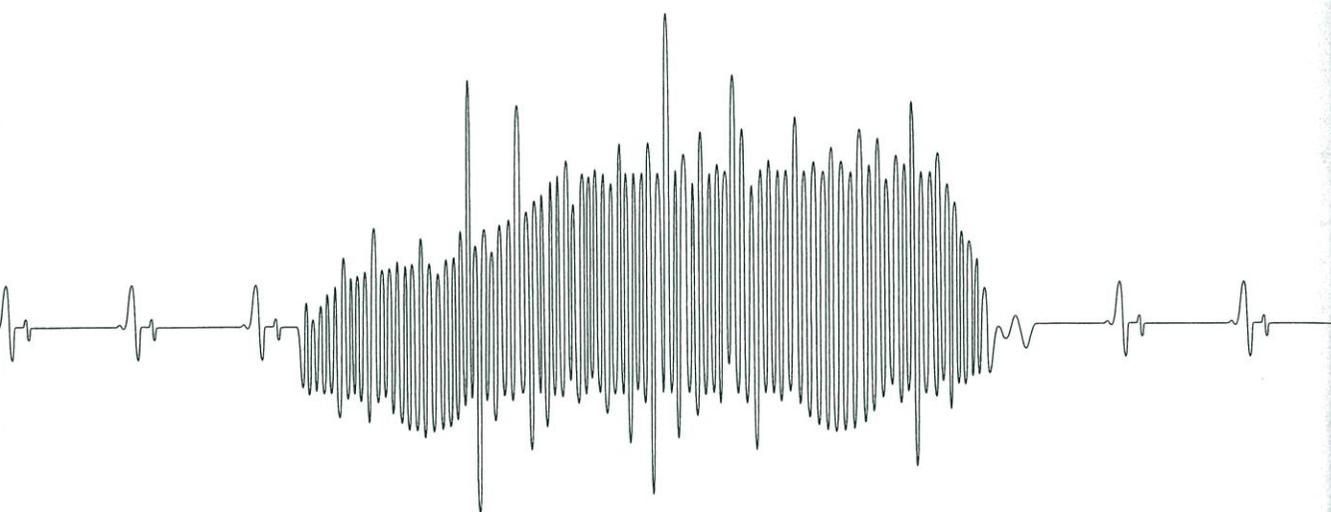
ドミニク・ブーレー
Dominique Boulet・イングランド
生年月日:1965年7月3日
プロ入り:1989年
1999キリンオープン 57位タイ



エドアルド・エレラ
Eduardo Herrera・コロンビア
生年月日:1965年4月28日
プロ入り:1987年/優勝:5回
1999賞金ランク:30位(¥37,390,350)



ディネッシュ・チャンド
Dinesh Chand・フィジー
生年月日:1972年2月6日
プロ入り:1991年/優勝:1回
1999賞金ランク:62位(¥15,528,357)



あなたのハートは走っていますか。

Heart-Beat Motors

胸が高鳴るクルマ、ただそれだけをつくる。三菱自動車

無難なだけのクルマはもういない。欲しくてたまらないクルマ、どこにも無かったクルマしかつからない。私たちは、移動の道具を超えた「思い入れの対象」をつくるという誇りを持って、これからのクルマづくりの軸となる三つの価値を掘えました。
①クルマに乗るときの、ドキドキ。寄り道する楽しさ、冒険の楽しさ、人を熱くする。ラリーの世界を闊いぬく中で身につけた技術——地球環境に配慮しつつ地球を思いきり走破する「Earth Technology」に、私たちは磨きをかけます。

②クルマを持つことの、ワクワク。実用を満たすだけでは、本能は満たされない。完成度とタフネスを極めたものこそ、人を惹きつける。本物を求める人々のための、本物だけが持つ魅力「Industrial Beauty」を、私たちは極めています。
③クルマの話をするときの、ウキウキ。つねに時代や技術の壁に挑戦して、これを乗り越える姿勢こそ、人の心を躍動させる。思わず誰かに話したくなる知的刺激を発信し、次代をきりひらくスピリット「Next Frontier」を、私たちは持ちつづけます。



MITSUBISHI MOTORS

Course Guide

会場内紹介



1 チャリティフォト Charity Photo



20(木)・21(金)・22(土)
 選手のホールアウト後、お気に入りの選手との記念写真はいかがですか。お申込みは会場にて1選手につき10名まで(先着順)とさせていただきます。お早めにどうぞ!
 ※1枚:¥1000以上(売上は全て茨城県内の福祉団体にチャリティされます)
 ※土曜日(4月22日)は、18番グリーンサイドで行います。

2 子供広場 Kids Garden



最終日はタイムレンジャーがやってくる! お子様自由に遊べる楽しい広場です。お子様に楽しくゴルフを知っていただくコーナーも設けました。また、最終日にはタイムレンジャーとの記念撮影を行います。参加費は1枚100円、チャリティとして寄付します。
 8:30~9:30、10:00~10:30、11:30~12:00、13:00~13:30、14:00~14:30の予定です。

3 福祉の店 Welfare Shop



茨城県内の身障者の方が制作した物品を展示販売しているコーナーです。手工芸品から陶芸品、木工品、食料品など、手作りの楽しい商品が盛り沢山。ぜひお立ちください。

4 G.バクスターの店 Graeme Baxter's Shop

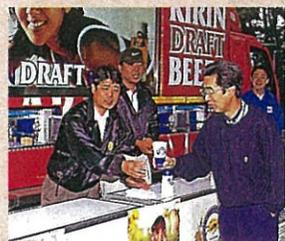


セントアンドリュースやオーガスタショナルGCなど、世界の名コースを描きつづけるゴルフコース画家のグレーム・バクスター氏の絵画を展示販売する特別ブースです。テレビや写真でお馴染みのあのコースが、バクスター氏の手により、さまざまにイメージを上げてくれます。この機会に、世界の名コース探訪を楽しんでみてはいかがでしょうか。

5 ダンロップショップコーナー Dunlop Shop



このコーナーでは、皆様の観戦の記念になるようなキリンオープン特性オリジナルグッズの他、さまざまなダンロップ製品を格安のバーゲン価格で販売しています。



9 ギャラリープラザ Gallery Plaza

ゴルフ観戦の合間、緑に包まれた食事はとても気持ちのいいものです。キリンオープンならではの、美味しく、お手軽な値段でのお食事と、各種お飲み物を用意してお待ちしております。また、迫力の画面200インチのオーロラビジョンでスコア速報やプレー中の選手も放映しています。さらにこんなコーナーも……
 <キリンドラフトカー>
 よく冷えたキリン生ビールを販売しています。
 <アジアグルメコーナー>
 毎年好評をうけているアジアグルメコーナーを、今年も開催いたします。このコーナーでは、筑波大学に通うアジア各国の留学生による、自国の自慢料理を紹介いたします。お手軽に、ファーストフード感覚で、アジアの食を堪能してはみませんか。

6 ギャラリー抽選会 Gallery Lot Drawing

「北海道キリンピアパーク千歳見学ツアー」ヘアで10組20名様をご招待。
 前売り券の表紙1枚につき1回抽選が行えます。(4日間開催)

7 JGAブース JGA Booth

財団法人日本ゴルフ協会(JGA)ブースでは、ゴルフフルールの裁定集や、2000年度版のルールブックを販売しております。

8 フリーマーケット Free Market

22(土)・23(日)
 農産物をはじめ、思いも寄らないお宝物まで。観戦の合間に、ぜひお立ち寄りください。



ギャラリートイレ

1番、4番、6番、13番ティ付近
 7番、16番グリーン付近、ギャラリープラザ

ギャラリースタンド

1番ティ、18番グリーン、練習場

ギャラリー売店

7番、17番グリーン付近

速報板

公衆電話

総合案内所前

バス発着所

パビリオンテント

子供広場横

ギャラリー受付

シッピングエリア

座ってご観戦できます

ケータリングカー

コース内にお飲み物等を乗せたカートが巡回しています。ぜひ、ご利用ください。



12 アセアンブース Asean Booth

東南アジア諸国連合(アセアン)の貿易・観光等の紹介をしています。

11 総合案内所 Information Counter

ギャラリーの皆様の、さまざまなお問い合わせにお答えしています。会場での疑問や質問がありましたら、お気軽にお立ち寄り下さい。ギャラリーイベントのお知らせもしております。また、タバコの販売もこちらです。荷物をお預かりするスペースも、若干ですがご用意しております。総合案内所は、第一組スタートから最終組ホールアウト後までオープンしております。

10 チャリティパッティングコンテスト Charity Putting Contest

本グリーンさながらの特設グリーンでのパッティングコンテスト。好スコアの方には賞品をご用意しています。日頃の腕を思う存分発揮して、賞品をゲットしてください。
 ※1人1回:¥500以上(売上は全て茨城県内の福祉団体にチャリティされます)



グッド・インパクト。

インパクトテクノロジー ゼクシオ デビュー

インパクトという視点からゴルフを科学する。私たちはウッドに求められるあらゆる課題に、答えを出していききました。もっとゴルフに余裕を。完成、ゼクシオ・ウッド。

いつものスイングで、まっすぐ飛ばせる。
オートターン設計



●ゼクシオは重心位置を適正化、スクエアにヒットできます。

あなたの打点が、スイートエリアになる。
オートフォーカス設計

まるで斧のような切れ味、気持ちよく振り抜ける。
AXソール

思いきり振りきれ。ヘッドもさらに走りやすい。
MP100シャフト

ツアースペシャル ゼクシオ・ウッド

◎W#1 (8, 9, 10, 11, 12/46インチ, 305cm³) 1本 75,000円
◎W#3, 4, 5, 7 1本 70,000円
※レディスもあります。レフトハンド、ハードヒッター向きツアーモデル (85,000円 / W#1 1本) 6月発売予定。(価格はメーカー希望小売価格、税別)



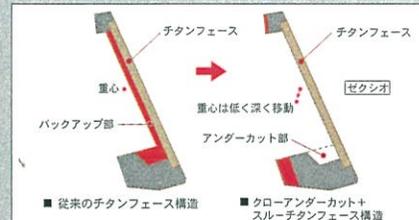
TOUR SPECIAL **XXIO** 21世紀は、美しく飛ばそう。

◎商品のお問い合わせは東京 03-5546-0160 神戸 078-265-3045。◎グッド・インパクトのゼクシオ・ウッドの詳しい情報はFAXでもお届けています。お電話から東京 03-3940-6000 大阪 06-6455-6000をダイヤル。音声ガイドに従ってBOXナンバー525590#を押してください。◎インターネット情報 <http://www.dunlop.co.jp/xxio>

インパクトテクノロジー ゼクシオ デビュー

ゴルフに新しい快感を。私たちはアイアンの理想を、ひとつひとつカタチにしていきました。すべてはグッド・インパクトのために。完成、ゼクシオ・アイアン。

ラクに振れば、まっすぐ、高弾道で狙える。
クロアアンダーカット+スルーチタンフェース設計



自然にスイートエリアでとらえられる。
オートフォーカス設計

手元部にはしっかり感、中間部にはしなり感。
MP100シャフト

ツアースペシャル ゼクシオ・アイアン

◎10本セット (#3-9, P.W, A.W, S.W) 220,000円
※レディス (176,000円/8本) もあります。レフトハンド、スチールシャフトモデル (180,000円/10本) も6月発売予定。(価格はメーカー希望小売価格、税別)



TOUR SPECIAL **XXIO** 21世紀は、美しく飛ばそう。

◎商品のお問い合わせは東京 03-5546-0160 神戸 078-265-3045。◎グッド・インパクトのゼクシオ・アイアンの詳しい情報はFAXでもお届けています。お電話から東京 03-3940-6000 大阪 06-6455-6000をダイヤル。音声ガイドに従ってBOXナンバー525590#を押してください。◎インターネット情報 <http://www.dunlop.co.jp/xxio>

Hole by Hole

ホール紹介

1952年に読売プロとして産声を上げたこの試合、幾度かの名称変更を経て、77年から茨城GCに舞台を移した。

東西二つの18ホールを持つ茨城GCで、原則的に大会は東西交互に行われてきた。そして新たな歴史的一步を踏み出す今大会は、2年ぶり12度目の東コースで行われる。

東コースの特徴は、総ヤード7078ヤードに及ぶロングコースであるということ。そして、一見広く感じるフェアウエーではあるが、実際のプレーでは、大きくうねるマウンドや、フェアウエーに張り出す松、池などが微妙にプレーラインと絡み合う。つまり、大きな飛距離と、正確なポジショニングが要求されるタフなコースなのだ。

逆にドッグレッグやブラインドホールは少なめで、正攻法の攻撃力が要求されるコースとも言える。

今大会の出場予定選手では、ジャンボ尾崎が東コースで過去4勝と、圧倒的な相性の良さを示す他、正確な長打力でアジアチャンピオンに輝いたフランキー・ミノザも、今大会2度の優勝はいずれも東コースだった。

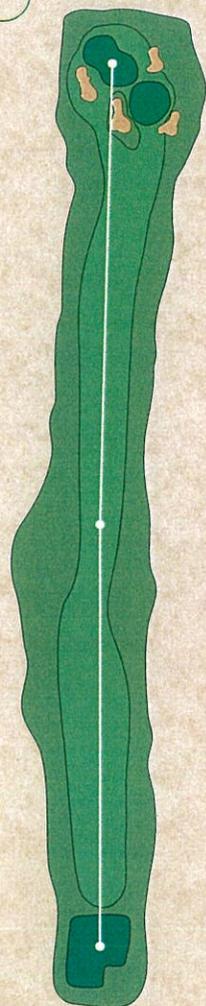
ホールの長さや難易度を見比べていただくために、別表を用意した。

過去の東コース大会のスコアの累計だが、一見してほとんどのホールがオーバーバーとなっていることから、コースの難易度が推し量られる。

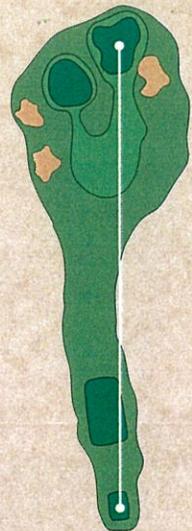
中でも477ヤード(パー4)の距離を有し、18ホール中最難関となる1番ホールは、順調なラウンドの滑り出しを期す参加選手にとって、是が非でもパーの欲しいホールと言える。

ここでリズムを崩すと2番(238ヤード・パー3、難易度4番目)、3番(462ヤード・パー4、同5番目)と続くスタート3ホールで大きく躓く恐れもあるのだ。

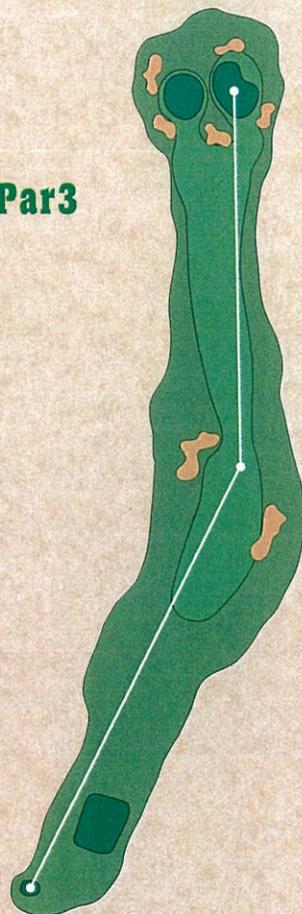
トッププレーヤーが織りなす張り詰めた緊張感を味わいたいファンなら、是非ともスタート3ホールの観戦がお勧めだ。



1 477y Par4



2 238y Par3

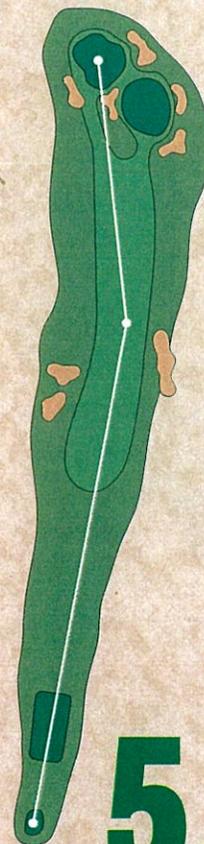


3 462y Par4

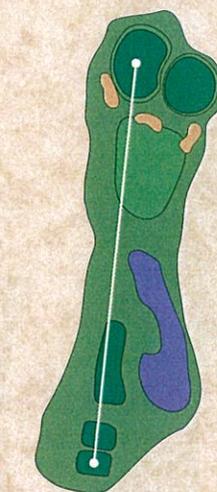
4 381y Par4



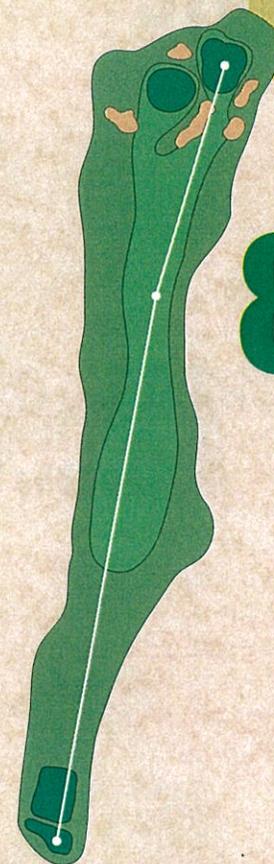
5 415y Par4



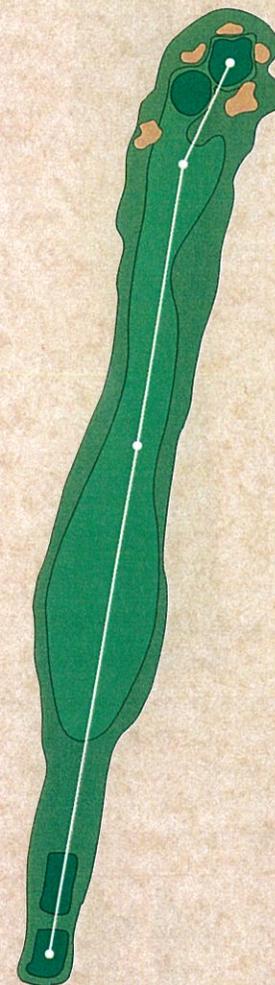
6 192y Par3



7 395y Par4



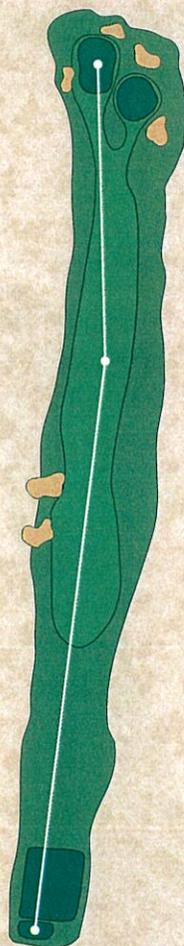
8 424y Par4



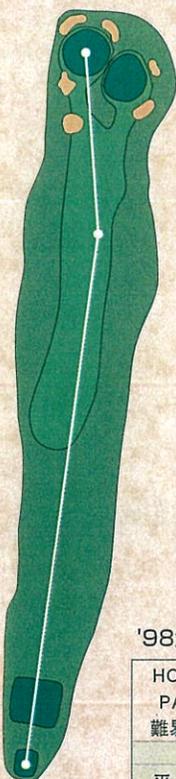
9 524y Par5

Ibaraki Golf Club East Course **OUT**

10 459y Par4



12 389y Par4



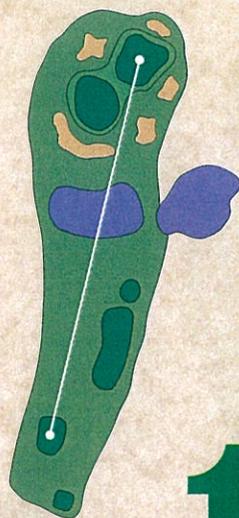
11 382y Par4



14 432y Par4



13 173y Par3



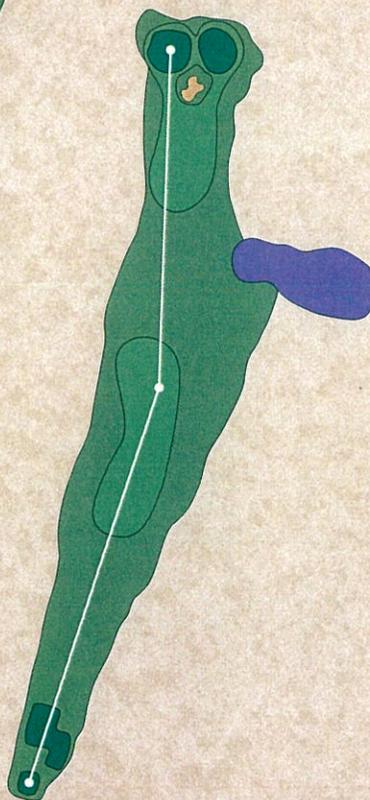
15 537y Par5



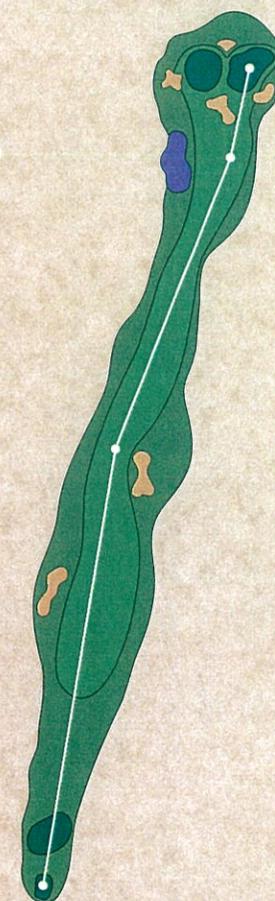
17 230y Par3



16 449y Par4



18 519y Par5



'98大会東コース通算データ

HOLE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
PAR	4	3	4	4	4	3	4	4	5	4	4	4	3	4	5	4	3	5
難易度	1	4	5	10	8	14	12	9	17	2	15	13	11	7	16	6	3	18
平均ストローク	+0.4	+0.2	+0.2	+0.1	+0.1	-0.1	+0.1	+0.1	-0.1	+0.3	-0.1	+0.1	+0.1	-0.1	-0.1	+0.2	+0.3	-0.1

一方で、上がりホールは攻守の機微が目まぐるしく変わる。

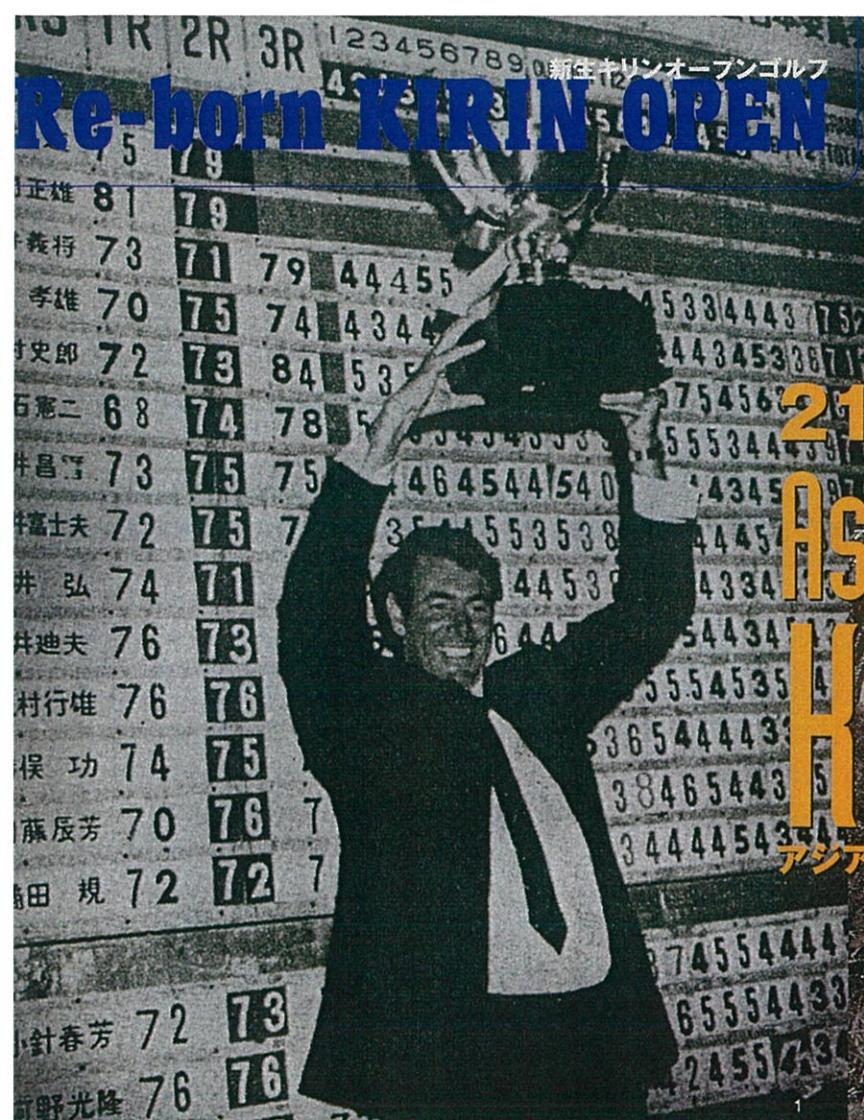
18ホール中、最もスコアが縮めやすいとデータに出た18番(519ヤード・パー5)が最終に控えるため、逃げきりを図るプロにとっては、ここまで3打以上の差を付けておきたいところだが、追う選手にとっては2打差以内に付けておけば大逆転の権利を残すことになる。つまり、終盤に来ての1打の攻防は、18番をホールアウトするまで結果が見えないということだ。

お気に入りの選手のプレーを一通り観戦したら、最後はどんでん返しの待ち構えるこのフィニッシングホールに陣取ろう。もっとも選手の側からすれば、気になるのはその直前の2ホール。16番(449ヤード・パー4難易度6番目)、17番(230ヤード・パー3同3番目)と高難易度のホールが続く。

スタート直後以上に、この時点でのミスは致命的となる。逆にバーディを奪えば俄然形勢は有利になる。スーパーバーセーブ、スーパーショットのドラマが、終盤のホールで生み出されるのだ。

だが18ホール、または72ホールの流れから類推すれば、高い難易度の10番(459ヤード・パー4同2番目)を切り抜けた後、スコアを縮めてリーダーボードを駆け上がるには、11番(382ヤード・パー4同15番目)から15番(537ヤード・パー5同18番目)までのアグレッシブな攻撃が大きなポイントとなる。各選手の攻撃ゴルフを堪能したいファンは、この辺りの中盤の攻防に着目。見応えたっぷりのバーディ合戦が期待できそうだ。コースに到着したら、一人の選手のプレーをじっくりと追いかけるか、それとも目的を持って一か所かその周辺に腰を落ちつけて観戦しよう。

勝負の駆け引きを堪能するもよし、選手による攻め方の違いを比較してみるもよし。国際的なトップゴルファーのプレーからは、必ずや新しい発見が得られるはずだ。これこそ、トーナメント観戦の醍醐味といえるだろう。



Re-born KIRIN OPEN

21世紀に期待する「新生キリンオープンゴルフ」 Asia-Pacific OPEN GOLF CHAMPIONSHIP KIRIN OPEN GOLF

アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ

- 1 '66年読売国際オープンに優勝したヒュー・ボイル(英)。
- 2 '79年香港オープンに優勝したグレッグ・ノーマン(豪)。世界のノーマンもプロ入り直後はアジアツアーに参戦していた。
- 3 '95年サバオープンに優勝のプラント・ジョーブ(米)。その年の総合優勝にも輝き、翌年から日本ツアーで大活躍した。



20世紀は、ゴルフの“大衆化”と“世界への伝播”の時代だった。

600年に渡るゴルフの歴史。その中で近代ゴルフの始まりは、19世紀半ば過ぎに第一回全英オープンゴルフ選手権として記された。1860年(スコットランド・プレストウィック)のことである。

以降、ゴルフは米国へ輸出され、1895年に全米オープンが始まった。すると米国では、瞬く間に多くの民衆から圧倒的な支持を受け、ゴルフは大きな人気を誇る大衆スポーツとして発展していった。同時期にスタートしたウエスタンオープン(1899年～)など、競技会の趣旨こそ少しずつ変化しながらも、現在でも脈々と100余年の伝統を守り抜くトーナメントもあることから、ゴルフが一部の人のためのものではなく、大衆に愛され続けるスポーツであることが伺える。

また19世紀後半、ゴルフは米国に輸出されただけでなく、英国の発展に歩調を合わせるかのように、世界各国で紹介された。

「英国人が3人集まれば、ゴルフクラブができる」と言われたほどで、この時期を境に、世界中のあらゆる地域でゴルフコースが作られている。むろん日本でも同様である。

1903年に英国の貿易商A・H・グルームによって神戸ゴルフ倶楽部が開場し、1907年には早々と日本アマチュア選手権が創始された。プロをも交えたオ

ープン競技は、やや遅れ、1926年の関西オープンからである。ゴルフにとって20世紀は“大衆化”と“世界への伝播の時代”だったわけだ。

以降、世界各国でトーナメントが開催され、今世紀後半には、ひとつ一つのトーナメントを結んだ“ツアー”が隆盛を極めるに至っている。

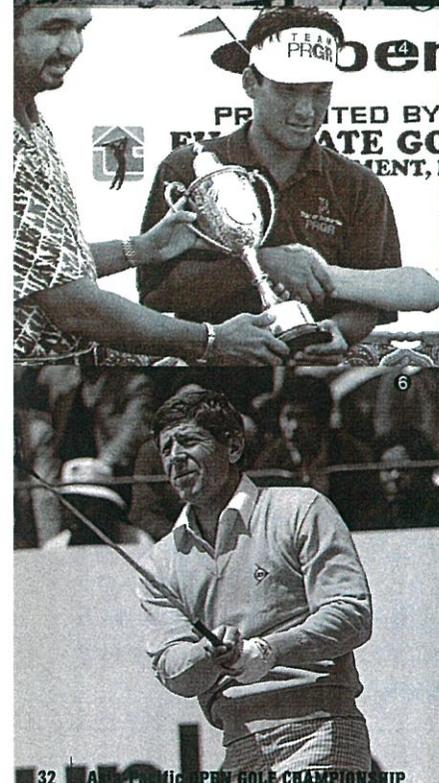
新世紀での“国際交流”の期待を担って新生キリンオープンがスタート

キリンオープンとは、長らくアジア各国と地域のナショナルオープンを結んだアジアツアーの一員でもあった。つまり“ツアー”をゴルフの“大衆化”と“世界への伝播の時代”の結晶と捉えてみれば、キリンオープンは今世紀の代表的なトーナメントに位置づけられるのだ。

そのキリンオープンが、さらに発展的進化を遂げた。

国際競技団体であるアジア太平洋ゴルフ協会(APGC)が主催し、APGCに加盟する全25の国と地域全域に対して門戸を開放し、各地域の優秀なるアマチュアとプロゴルファーとが一同に会して覇を競う大会へと生まれ変わったのだ。

名称も“アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフ”と改められ、その第一歩が、今年、踏み出された。



- 4 日本のプロテストに失敗した野上貴夫だったが、'97サウスウッズオープンで見事に初優勝を果たした。
- 5 '91年本大会のローアマチュアに輝いたのは、先日のマスターズにも出場した丸山茂樹。
- 6 '80年ダンロップインターナショナルオープンで2位タイのグラハム・マーシュ(豪)。

Re-born KIRIN OPEN

もちろん従来どおり日本のトーナメントを代表する試合でもある。そしてAPGCと共に作り上げるアジアのための唯一のオープン競技である。それだけでなく、出場選手カテゴリー（別掲10ページ参照）を見ても、国際的でユニークなトーナメントであることがご理解いただけると思う。

こうした正真正銘の国際トーナメントが20世紀の最後の年に開始されるということも、新世紀に向けての確かな胎動を感じさせるという意味で、とても意義深いことである。

と言うのも、今世紀前半には、既に国際交流の必要性が説かれ、その具体的なプランの産声も上がっていたからだ。

宮本留吉のメジャー出場に始まる日本のゴルファー渡航史だが…

世界的に見ると、ゴルフを通じた国際交流もその中心は、1927年に始まったライダーカップ（隔年開催のプロゴルフの英米対抗戦、1979年から欧米対抗戦）に象徴される英米間の交流である。が、ゴルフを嗜むあらゆる国の人々が、国や地域の垣根を越えて、ゴルフを通じた平和的な外交を模索していたのだ。日本のプロゴルファーでは、1932年に宮本留吉が全英オープンと全米オープンに出場したと記録に残っている。また1934年に始まったマスターズへは、1936年に陳清水、戸田藤一郎が招待されたのが最初である。だが当時の世情から察し、宮本らのみならず、個人の意思だけでは、海外遠征はままならなかったはずだ。ゴルフに対して深い造詣と理解を持った多くの篤志家の援助なくして、ゴルフの国際交流は成しえなかったのだ。その篤志家の一人に野村駿吉がいる。

この野村を抜きにして、日本と諸外国との国際交流を語ることはできない。この誌面をお借りして、野村とゴルフと国際交流について触れてみたい。

野村駿吉が追い求めた石油とゴルフの“国際交流”の夢

1889年神戸に生まれた野村は、神戸高商卒業後、24歳の時に商社社員として米国に渡り、ニューヨーク駐在中にゴルフを独学で覚えたという。その後テキサスに移り、石油採掘に従事した。この時に、全米の石油業者と幅広く交際し、同時にゴルフに熱中できる時間を持った。この経験を経たことが後年、野村が石油とゴルフを媒介に、日本と世界との橋渡し役を買って出る大きな要因となったようだ。

戦前には、あの球聖ボビー・ジョーンズの来日を図ったり、日本のプロゴルファーの米国留学を模索したが、残念ながらいずれも時局悪化のためか、実現には至らなかった。因みに野村は体型が、かのジョーンズと似通っていたことから、早くからジョーンズのスイングを自らの参考にしていらした。そして商社を辞した後、石油業を起こした起業家としても、ジョーンズに私淑していた。

戦後、野村は敗戦の混乱の中、仕事の傍ら東京ゴルフ倶楽部の理事としてゴルフ復興に尽力した。1948年には倶楽部競技を復活させ、同年同倶楽部の理事長に就任した野村は、翌年関東ゴルフ連盟の再建、そして日本ゴルフ協会（JGA）の再興を成し遂げたのだ。また、林由郎らプロゴルファーの海外派遣にも手を尽くしている。敗戦国としてGHQ占領下であった日本において、民間人の渡航は、戦前にも増して困難な時期だった。

まさに実業家として、そしてゴルファーとして深い人脈を持った野村でこそ成しえた業績であろう。

こうして野村を中心としたゴルフの国際的交流の運気は、1957年のカナダカップ（現ワールドカップ）の日本大会（霞ヶ関CC）として結実した。この大会で、中村寅吉・小野光一の日本チームは見事優勝。この勝利を機に、日本に一大ゴルフブームが巻き起こったことは周知の事実である。

そして、野村のゴルフにおける国際交流は、アジアに目を向けられた。

1962年、川奈ホテルで世界アマ（アイゼンハワー杯）が開催された際、フィリピンのマニエル・ディンド・ゴンザレスから、フィリピン、日本、台湾でトーナメントを行う提案が成された。当時JGAの副会長だった野村は、積極的にその実現に尽力し、翌年1月にフィリピンで“第一回アジアアマチュアチーム選手権”が催された。

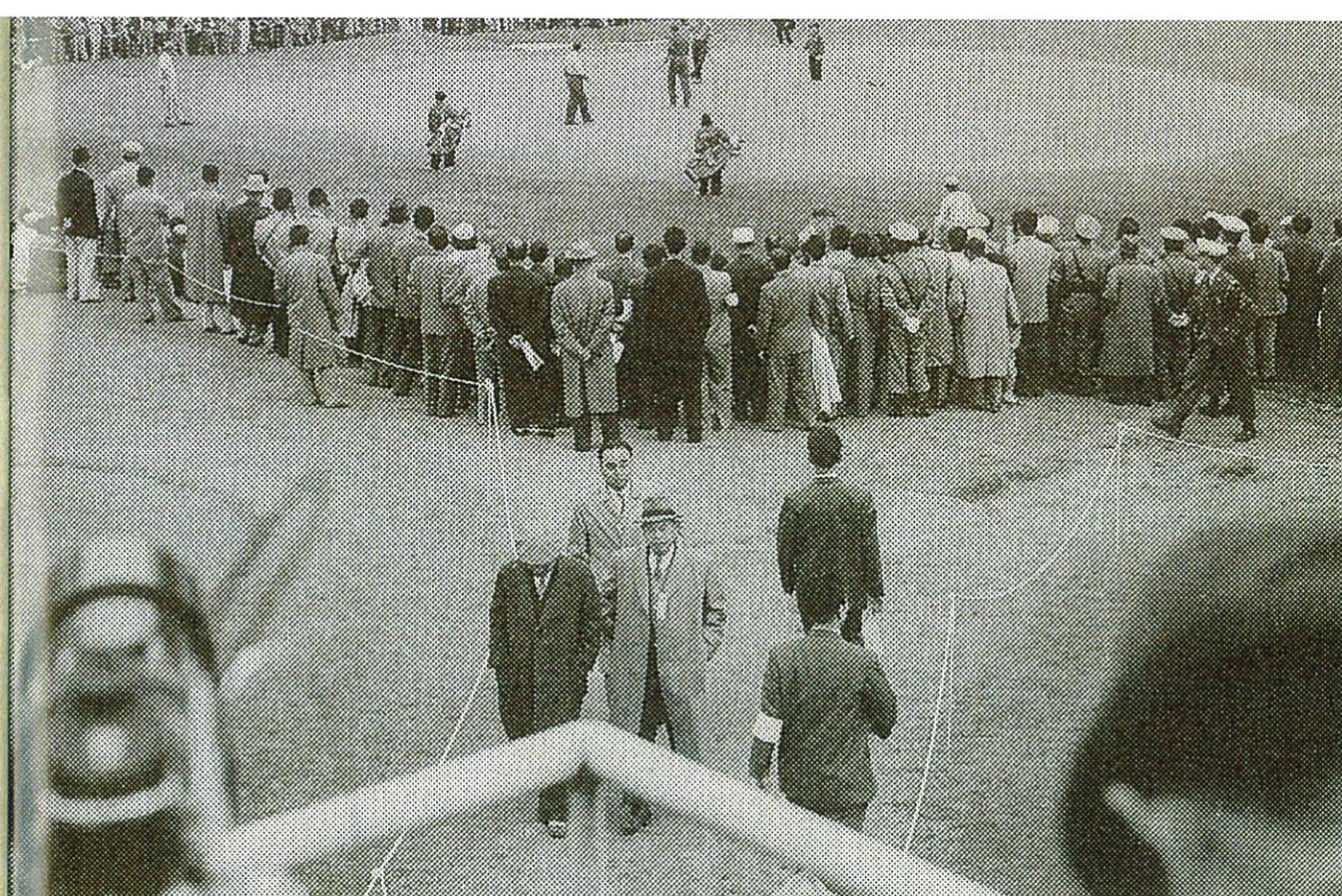
欧米に比べてゴルフの浸透が遅れていたアジアで、この国際競技の実現はまさに画期的な出来事だった。そして野村は、この試合に自らトロフィを寄贈した。野村こそ、アジアにおけるゴルフの国際交流の重要性を、最も認識していた人物だったのだ。

世界のゴルフ史にも綴られるこの世界的快挙を見届けるようにして、野村は3か月後の5月に、石油とゴルフの国際交流に尽力した73年の生涯に幕を下ろした。

だがその意思は“アジアアマチュアチーム選手権”に根付き、同競技は“ノムラカップ”と称され、現在でも優勝チームに当時のままのトロフィが授与されている。

そして、この“アジアアマチュアチーム選手権”こそ、アジア太平洋ゴルフ協会（APGC）発足の母体となったのだ。

第5回カナダカップでは中村、小野のペアで、団体、個人ともに優勝し、一躍ゴルフ日本の名を世界に知らしめた。



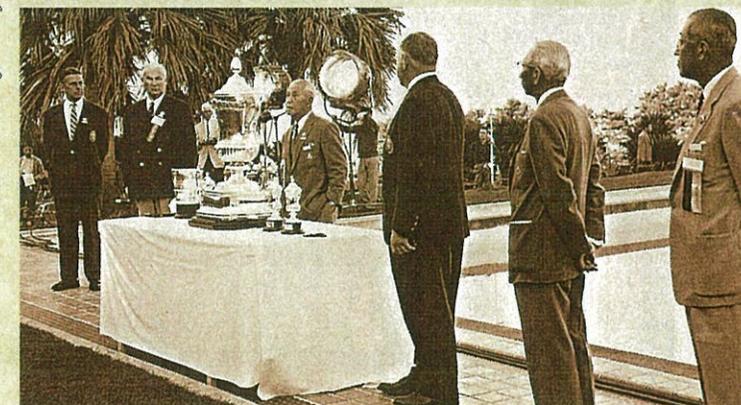
1957年第5回カナダカップが霞ヶ関CC東コースで開催された。日本で開かれた初の国際競技であり、開催のコンセプトは原子力の平和利用にあった。（写真上）
1967年川奈で開催された世界アマ・チーム戦。開会式でスピーチをするのは、この大会の提唱者でもある野村駿吉。（写真右）

“ノムラカップ”の創始とAPGCの発足

ノムラカップは、1963年に第一回大会を催したが、その大会最終日に、正式に“アジアアマチュアゴルフ連盟（AAGC）”が発足し、M・D・ゴンザレス（フィリピン）が会長に選出され、2年後の第二回大会（日本・日光大会）の際に、規約と細則の決定がなされた。

第三回大会は台湾で開催されたが、この時に、ノムラカップは世界アマ（隔年開催）の行われない年に開催されることと決定された。また組織名もアジアアマチュアゴルフ連盟からアジアゴルフ連盟（AGC）へと変更された。

そして1977年のマレーシア大会の際に、アジアゴルフ連盟からアジア太平洋ゴルフ協会（APGC）へと名称変更され、豪州、ニュージーランド、パプアニューギニアなどのオセアニア各国をも包括した、より大きな国際ゴルフ競技団体へと成長を遂げていったのだ。



アジアサーキットからアジアンツアーへ

一方で、プロトーナメントの国際交流も芽生えつつあった。

1962年、当時アジア各地で開催されていたトーナメントをサーキット形式で結び付け、アジアのゴルフ振興に貢献しようとする試みがなされた。フィリピン、シンガポール、マレーシア、香港、日本の5か国の代表的トーナメントを巡回する“アジアサーキット”の誕生である。その日本大会には、1952年に始まった読売プロゴルフ選手権が任命され、この年から同競技は読売国際オープンゴ

ルフ選手権として装いを一新した。

当時、日本ではプロトーナメントの数も限られており、多くのプロは海外へと目を向けざるを得なかった。アジアサーキットはまさにその実情に合致していたわけだ。そして多くのプロゴルファーが、遠征先で数々の名勝負を演じてきた。それはアジア各地も同じ情勢で、アジアサーキットは全アジアのプロの修行の場として隆盛を極めていた。以降、1972年に総武国際オープンと名称を変更。この頃から徐々に日本のトーナメントも数を増し、徐々に整備さ

Re-born KIRIN OPEN

34436535	3366324434	758277	69	303	603	SWEDEN
36444538	46446434437	757575	75	300		SWITZERLAND
36634637	34446433434	688887	71	274	657	UNITED STATES
26434535	34545534437	737088	72	283		THAILAND
36433835	46535434437	828382	72	319	637	WALE
36645541	36646435338	827879	79	318		
34444538	44666424439	777980	77	313	626	
36434538	36646533538	817581	76	313		
36435536	4644439	797379	76	306	605	
463533	435436	757677	71	299		



1957年のカナダカップで日本に優勝のチャンスあり、とひそかに期待したのは、開催に一夜担当した野村駿吉だった。(写真上)
1963年マニラで行われた第1回アジアアマチュア選手権に勝った日本チーム。(写真中)
1999年のノムラカップ(アジアアマチュア選手権)でバクスタンに選征した日本チーム。



れてきた。1973年からは初めて日本のプロツアー制度化がなされた。と、同時に日本のトッププロにとっての活躍の場は日本ツアーとなっていた。

そして1977年APGC発足と同時に、アジアサーキットの主幹はAPGCが引き継ぎ、新たにAPGC加盟の国と地域のナショナルオープンツアーとする“アジアツアー”として再スタートを切ったのだ。

この年のアジアツアーは、全8競技。日本大会は、アジアサーキット時代の流れを受け継いだ総武国際オープンがダンロップ国際オープンと名称を替え、同時に大会コースも現在の茨城ゴルフ倶楽部に移行した。

以来、ダンロップオープン(1988年から)、キリンオープン(1996年から)と名称を代えながらも、アジアツアー日本大会の責務に当たってきた。

アジアツアーの隆盛と衰退、そして再生への道

各地のナショナルオープンツアーするシステムで伝統を築き上げたアジアツアー。

その総合優勝者には、日本ツアーへの1年間の出場資格が与えられる他、全英オープンやメモリアルトーナメント(米ツアー)への出場権も与えられるほどに、世界的にその地位が認められてきた。最盛期には、多くのアジア地域のゴルフシーズンである秋に開幕し、新年を挟んで春に閉幕する独特のツアー形態を取り、1シーズン9試合もの競技を開催(95/96年)していた。

サーキット時代後期も含め、アジアツアーにはグレッグ・ノーマン(豪州)やニック・ファルド(英国)、ベルンハルト・ランガー(ドイツ)などの、後の世界的に名選手も参戦していた。近年ではブライアン・ワッツ(米国)やカルロス・フランコ(パラグアイ)が、アジアツアー総合優勝の権利で日本ツアーに参加し、そして世界を股にかける活躍をみせている。

だが1990年代に入ると、日本を含めた

アジア各地を直撃した深刻な経済不況が、ゴルフにも大きな打撃を与えはじめた。

プロも含めたオープン競技に賞金は不可欠だ。しかもトーナメントを開催するに当たっては、賞金以上にその大会運営費が嵩む。地域のナショナルオープンとはいえ、それ自体の開催が困難な地域が続出した。

と同時に、巨大資本を背景としたアジアプロツアーの存在も脅威を増してきた。トーナメント開催に対して経済援助してくれるプロツアーへ移行しながらも、生き長らえる方策を選択するトーナメントも現れたのだ。

各地のナショナルオープンを結ぶ、という理念の元にツアー化されたアジアツアーは、こうして求心力、構成力を弱めていった。

アジア太平洋地域を母体とした、真の“国際オープン競技”の誕生

だが、お隣同志肩を並べるアジア太平洋地域において、全体が平和的に融合する手段の一つとして、ゴルフにはこれまで築き上げた長い伝統と実績がある。

ツアーに代わる、新しい国際交流の形態を見つけ出す必要に迫られたのだ。そこでAPGCは、これまでアジアのゴルフ国際交流の中で中心的な役割を果たしてきたJGAと、サーキット時代からアジアツアーの日本大会を担ってきたキリンオープンと共に、次世紀を見越した、真の国際ゴルフ競技会としての

再生を図ったのだ。

1999年を以て、アジアツアーは幕を下ろした。

そして2000年、アジアパシフィックオープンゴルフ選手権競技キリンオープンゴルフとして、アジア太平洋地域を包括したオープンチャンピオンシップが誕生した。

スコットランドではR&Aが全英オープンを主催する。米国ではUSGAが全米オープンを主催する。いずれも世界的に認められた国際オープンチャンピオンシップである。この二大国際競技と同様に、アジア太平洋地域では、APGCがJGAと共にキリンオープンを主催する。サーキット時代、アジアツアー時代からの国際交流の伝統は引き継ぎながらも、生まれ変わったばかりのチャンピオンシップである。国際的な認知は、今後の大きな課題だ。

だが、2000年に第一歩を踏み出した新生キリンオープン、まずはAPGC加盟各地域への認識をアピールするとともに、R&A、USGAなどの伝統的ゴルフ競技団体始め、各国ツアーへも、積極的に大会の意義を訴えていきたい。

偉大な先人たちの足跡を礎に、キリンオープンは歴史的一步を踏み出す

折しもプロゴルフツアーの世界では、ワールドゴルフツアーが出航した。未だ手探りながら、次世紀のキーワード“国際交流”を、まさに具現化した動きであろう。



1999年ノムラカップでメンバーの健闘を讃えるキャプテン(JGA国際委員長 辻暎一郎氏)。

新生キリンオープンの初回の参加地域は19に登った。19もの国と地域のゴルファーが、ここ茨城GCに集結したチャンピオンシップである。中には、決してゴルフ環境が恵まれているとはいえない地域もあろう。

だが、だからこそ積極的に国際交流への参加が望まれるのだ。

かつて劣悪なる環境の元、先達野村駿吉らは英米主流のゴルフ界との国際交流実現に東奔西走した。そうした先達たちの姿勢と実績は、間違いなく近年の日本ゴルフの大きな隆盛の礎となっているのである。

今大会の参加各選手、または選手を送り込んだ各地域ゴルフ連盟の要人の中に、必ずや自国のゴルフ興隆の土台を築く“野村駿吉”的人物がいるはずである。

そうしたアジア太平洋地域のゴルファー諸氏と手を携えてこそ、この大会が、今後国際的な大きな役割を担っていくことになるのである。

まずは、その第一歩。国際交流の必要性が、現実のものとなる21世紀を目前にした今世紀最後の年に、キリンオープンがアジア太平洋を包括し、代表する国際チャンピオンシップとして生まれ変わったことは、歴史的な快挙として後年に伝えられることだろう。



新鮮な明日へ
KIRIN

うまいキリン



太陽に喜び
風に喜び
雨に喜び。
やがてこの大地は
大麦に
えもいわれぬ
自然の「うまみ」を
与えてくれる。
素材のもつ
豊かな「うまみ」に
素直になる。
自然に逆らわない
自然に従う。
これがキリンの
新しいビールの
考え方。
辛いでも
苦いでもない
「うまみ」のビール。



キリンオールモルトビール
〈素材厳選〉

新発売

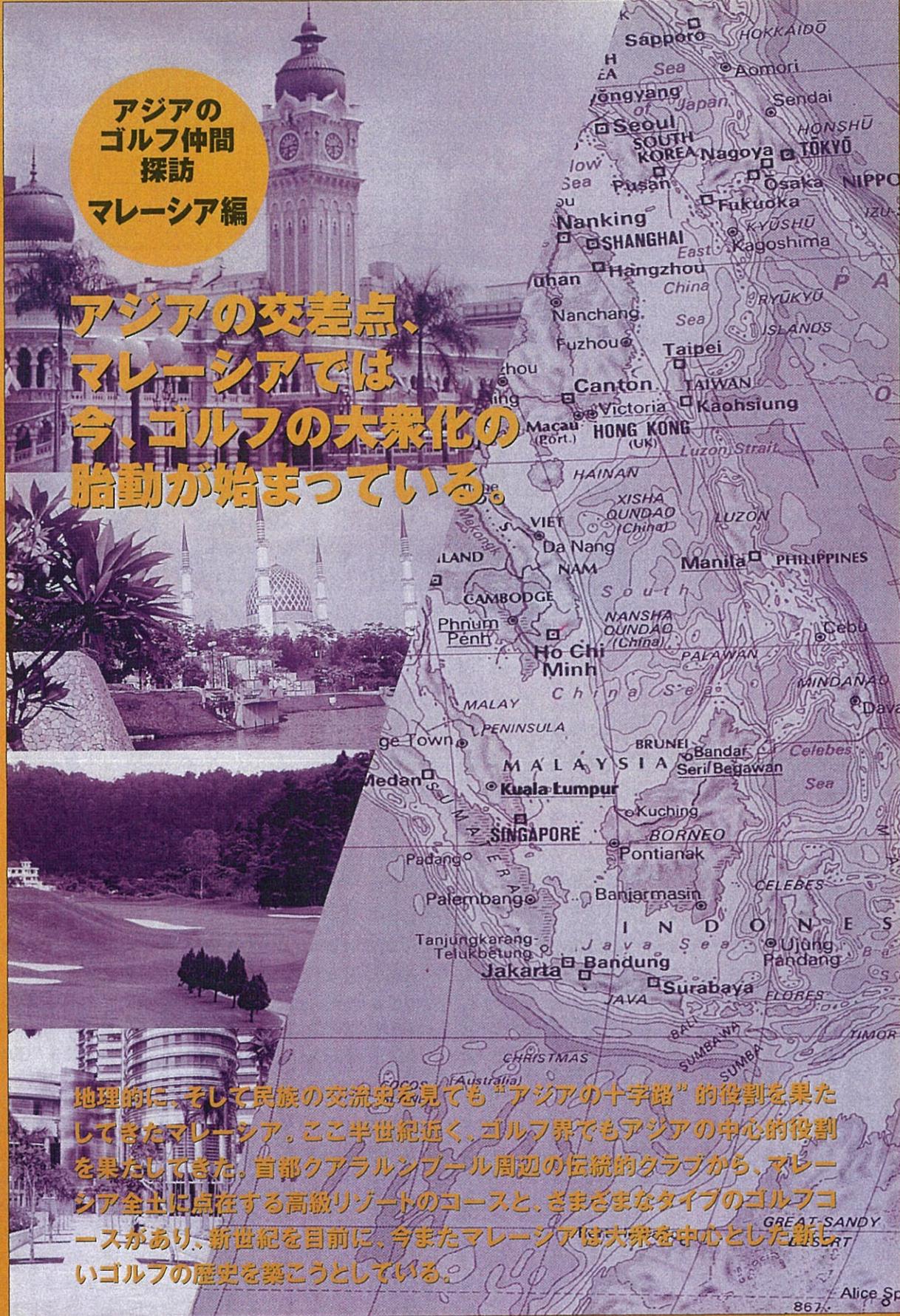
キリンビール株式会社



ホームページアドレス <http://www.kirin.co.jp> 飲酒は20歳になってから。あきかんはリサイクル。

アジアの
ゴルフ仲間
探訪
マレーシア編

アジアの交差点、
マレーシアでは
今、ゴルフの大衆化の
胎動が始まっている。



地理的に、そして民族の交流史を見ても「アジアの十字路」的役割を果たしてきたマレーシア。ここ半世紀近く、ゴルフ界でもアジアの中心的役割を果たしてきた。首都クアラルンプール周辺の伝統的クラブから、マレーシア全土に点在する高級リゾートのコースと、さまざまなタイプのゴルフコースがあり、新世紀を目前に、今またマレーシアは夫衆を中心とした新しいゴルフの歴史を築こうとしている。

マレーシアのゴルフを垣間見る前に、マレーシアの国と歴史をおさらいしてみたい。同じアジアの一員でありながら、マレーシアは、日本とは全く違った道を行ってきたからだ。単一に近い民族構成の日本に対し、マレーシアは複合多民族国家と呼ばれる。マレーシアの、こうした国家としての個性を知らない限り、到底マレーシアを理解することはできないようだ。

アジア大陸の南端、東南アジアのマレー半島と、南シナ海を挟んだボルネオ島の西北岸(東マレーシア)にわたるマレーシア。地図帳を広げその国土を確認すると、改めてその国境線にアジアの歴史と民族の複雑さが伺える。ほぼ赤道直下に位置し、緯度は1度弱から7度。国土の60~70%が熱帯雨林のジャングルだ。マレー半島の北はタイと国境を接し、南端にはシンガポール共和国が、ボルネオ島ではインドネシア共和国、ブルネイ・ダルサマルム国と土地を分け合っている。

大陸とは地続きながら、ほぼ四方を海に囲まれており、インド洋と太平洋の通過地点の要所でもある。そのため何千年もの昔から、中国、インドをはじめ、アフリカ、イスラム圏からも南方海洋民族たちが入れ代わり入植した歴史がある。

民族的にはオラン・アリスと呼ばれる先住民族が、現在でもマレー半島や東マレーシアの山岳地帯で原始的狩猟生活を続けている。この地にマレー系民族がやって来たのは4000~2000年前までに原マレー人が、そして2000年前後に新マレー人。原・新のマレー人は、今では判別ができないほどに混血が進んでいるという。このマレー人を中心に、7世紀頃から王国が勃興し、以降タイ、

ジャワ、など周辺国家との、東南アジア地域の覇権争いが続いた。宗教的にも第一王朝であるシュリービジャヤ王国が仏教に帰依したのに対し、マジャパヒト王国、マラッカ王国と遷移するにつれ、アラブ人の影響の元でイスラムが一般的になってきた。

14世紀の終わり頃のことで、現在のマレーシアの原型が形作られたのもこの頃だという。

ただ16世紀以降は、ヨーロッパ諸国の東洋進出を受け、17~18世紀には欧州列強同志の覇権争いに巻き込まれていった。最終的に19世紀には英国の統治下におかれ、同時に中国系、インド系住民が大量に流入してきた。

こうした経緯を辿った結果、現在では各民族がバランス良く共存共栄している。マレーシアが、複合多民族国家と呼ばれるゆえんでもある。

また、19世紀に英国の統治下にあったということは、そこにゴルフコースの誕生を見るわけで、クアラルンプール近郊のテンブラパークGCは開場106年の伝統を築き上げているという。

こうした国家個性によるものだろうか、今回、マレーシアで毎年行われているアジアプロツアーのクオリファイングスクール(Qスクール=予選会)時に取材に訪れたのだが、さまざまな人種のゴルファーが渾然一体と集まっても、何ら違和感を覚えない。

むしろ多民族が同じ舞台にいることこそ、自然、と感じられてしまう。

ゴルフの話に辿り着くまで遠回りしてしまったが、マレーシアの多様性をホンの少しでもご理解いただけたらどうか。こうしたマレーシアの個性を知った上で、まずは、現在のマレーシアゴルフの実情を知るために、マレーシアゴルフ協会



Thomas Lee
トーマス・リー

マレーシアゴルフ連盟(MGA)会長でもあり、アジア太平洋ゴルフ協会の議長も勤めている。マレーシアにとどまらず、アジア太平洋のゴルフの発展を心から願っている一人だ。

今や、世界を舞台に大活躍するリー・ウエストウッド(英)。1997マレーシアオープン王者でもある。(写真右)



アジアの
ゴルフ仲間
探訪
マレーシア編

(MGA)会長で、アジア太平洋ゴルフ協会(APGC)の理事会議長も務めるT.リーさんを訪ねた。

——現在マレーシアのゴルフコース数と、ゴルファー数を教えてください。

Lee MGA加盟クラブは、プライベートも含めて140です。クラブによってはメンバーの大勢いるところもありますが、ゴルファーは全体で50万人程度ですね。メンバーになればプレーフィは安いですよ。世界で一番安いかもしれない。

60リンギット(1リンギット=50円)でバギー(カート)付きで朝食まで含まれます。

——キャディは帯同しないのですか?

Lee 詳しい統計はありませんが、数は減っています。バギーがあれば楽だし、コストも軽減できますからね。

——ゴルファーはマレーシアの人たちが中心ですか、それとも外国からの滞在員や観光客ですか?

Lee ほとんど地元のマレーシア人です。でも、なかなか一般大衆には広が

年間26競技は東南アジア最大

マレーシアプロゴルフ協会(MPGA)では、入会テスト、ツアーテストを含め、年間26試合も競技を主催している。中でもマレーシアオープンはその最高峰で、アジアプロツアー、欧州ツアーの競技にも認定され、世界中からトップ選手が集まっている。因みに2000年大会の賞金総額は1万5000USDだった。

っていきません。

——まだまだ限られたハイクラスな人たちのモノなのでしょうか。

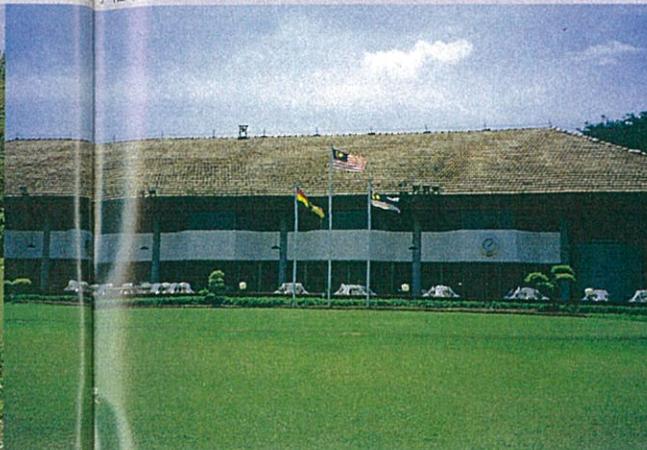
Lee 残念ながらそうです。でも特別お手持ちである必要はないのです。ある程度であれば…。ただプレー代は安価でもドライバーやボールなど、ゴルフ道具が高いですね。

——MGAとして、一番大切なプロジェクト、もしくは注目することはなんですか?

Lee サービスですね。今後ゴルファー



Brig gen Mahendran
B.G. マヘンドラン
マレーシアプロゴルフ協会(MPGA)会長。「マレーシアのプロツアーは200人近いプロを抱え、東南アジアでは最大の規模」と胸を張る。



**アジアの
ゴルフ仲間
探訪
マレーシア編**

やクラブに対してどのようなサービスが供給できるか。例えばHdcpシステムの確立やナショナルチーム用にトレーニング機械の整備や国際競技への出場援助などです。来月にはルール改正も行っており、競技役員養成のトレーニングも開始するんですよ。

—MGAとしては、年間幾つくらいのトーナメントを開催しますか？

Lee 約30です。メインはマレーシアオープンとアマチュア、ジュニアのチャンピオンシップ。それに世界中のゴルファーが集うイベントも近々開催されます。—具体的にはなんでしょう。

Lee 2002年のアイゼンハワーカップ(世界アマ)です。マレーシアでは初めてで、一番大きなイベントとなるでしょう。アジア諸国のアジアアマチュアチーム(ノムラカップ)もあります。

—それは楽しみですね。そうした大規模なイベントに対して、一般の国民は

3名の女子プロも戦うツアー

MPGAには、女子部もある。とは言え、現在エントリー数は3名と、やや寂しい。しかもこれではトーナメントも開催出来ない？そこでその3選手は、男子選手に混じってトーナメント参加する。ティは白マークからだ、それ以外は同等の権利と義務を持つ。つまり順位、賞金も男子選手と同等。実にユニークなシステムだが、過酷な条件の元、大物選手の出現の可能性も大きい。

どのような反応なのですか？

Lee 去年はワールドカップも開催したのですが、その時はタイガー・ウッズの出場で、ゴルフを知らない層の人まで、とても大勢やってきました。ですから、潜在的にゴルフに関心を持つ人は多いと確信しています。

—問題は、そうした潜在ゴルファーをいかに本物のゴルファーにするか、ということですね。

Lee 学校教育の中にプログラムが取り込まれれば、とは思いますが。興味を示す学校もあるのですが、現状では、やはり費用が掛かりすぎるために一般的ではありません。

—今後、オリンピックなども含め、ますますゴルフの国際競技の重要性が増してくると思われませんか？

Lee 良いゲームをするためには、良い選手が必要です。そのためには若者のゴルフへの参加を募りたいところで

すが…。政府にもゴルフをサポートしてくれるよう要請を続けています。

「民衆の力を支持することで多くの人々がゴルフをできるようになります。それが民衆を助けることになるんです」と主張しています。

このようにマレーシアのゴルフ界は、競技の整備が進み、興味の対象として捉えられているもの、真の大衆化にはもう一歩といったところだ。

そして一方でマレーシアは、プロトーナメントが盛んな土地柄でもある。アジアプロツアーのQスクールが行われていることは先に触れた通りだが、マレーシアプロゴルフ協会(MPGA)のディレクターB.G.マヘンドラン氏は、「マレーシアのプロツアーは、東南アジアで最大規模」と、胸を張る。

—アジアには今、東南アジアを中心としたアジアプロツアー(昨年まではオメガツアー、今年からはダビドツアー)と、各国のツアーが平行して存在していますね。

B.G フィリピンやシンガポールにもプロトーナメントはありますが、規模は大きくありません。マレーシアにはプロが現在176人いるんです。以前は200人以上の時もありました。

—そのうちトーナメントには何名出場できるのですか？

B.G 90人です。その他のプロは、レ

ッスンやキャディマスターのような仕事で生活しています。

—試合の規模と競技数は？

B.G 5000~1万リンギットなら1日、3万~5万リンギットなら2日間競技と、賞金額に応じてラウンド数が決まる傾向にあります。だいたい8万リンギットで4日間ですね。その4日間競技で、年間8~9回です。

—プロたちは、トーナメント賞金だけで良い暮らしができるのですか？

B.G 賞金だけではなく、スポンサーとの契約もありますし、まあ、いい暮らしなのではないでしょうか。

—他国のプロ協会やアジアプロツアー(APGA)との関係はどうですか？

B.G APGAとはとても良好です。以前から合意してますし、APGAのフルメンバーですから。マレーシアプロ選手権に勝ったら、マレーシアオープンや香港オープンにダイレクトでエントリーできるんですよ。

—将来的な目標は？

B.G 毎月2回はトーナメントを開きたいし、マレーシアプロ選手権ももう少し賞金を上げていきたいですね。

—どれくらいで実現しそうですか？

B.G もうすぐです。プロジェクトはもう始まっていますから。そうしたらマレーシアでも、もっとゴルフが一般的になってくるとおもいますね。

ゴルフ協会のリーさんも、プロ協会のマヘンドランさんも異口同音に、かつ

てのアジアサーキット~アジアツアー全盛期を懐かしむように述懐する。

「日本からも欧州からも有名選手が沢山出場してくれました。でも、各々の地域でツアーが確立し、賞金が上がるにつれ、だんだんとアジアから遠ざかってしまうのが残念でした」

という。その傾向は最近まで続き、

「結局マレーシアのゴルフやアジアのゴルフは“その次”へのステップストーン(踏み石)でした。結局、お金の魅力なのでしょう。アジアにいい選手は留まってくれません」(リー)

こうした潮流の中で、アジアツアーは発展的にキリンオープン(アジアパシフィックオープン)へと生まれ変わっていったのだ。

「キリンオープンはアジアで最大のトーナメントとなるでしょう。それに、さまざまな国から選手を輸入してくれる。会場に行けば、アジア中のトッププレーヤーにも逢えるしね。茨城のコースも素晴らしい。全てが最高、ただし冬の寒さを除けばね。キリンオープンには、大きな期待を寄せています」(B.G.マヘンドラン)

「毎週同じ顔触れでのトーナメントが続きますが、キリンオープンだけは、実に国際的だ。プロ、アマ問わず、アジアゴルファーの技量が向上していくと思います」(リー)

このように、マレーシアからも、キリンオープンには大きな関心を持たれているようだ。

ビジターはホテルからエントリー

マレーシアを個人旅行しながらゴルフを楽しむ人も多い。クアラルンプール市内のコースは限られるが、周囲を取り巻くセランゴール州からペナン周辺にかけては数多くのコースが点在。多くはメンバーコースだが、コース周辺のホテルがメンバーになっているため、滞在ホテルを通じてスタート予約を取ることが一般的だ。グリーンフィは、平日100リンギット、週末150リンギットが目安。ただし、マレーシアで最も伝統あるロイヤルセランゴールGCでのプレーは至難の業。ビジターでは、よほどのコネクションが無ければプレーできないという。また、マレーシア全土に渡ってビーチ、高原リゾート地が広がるが、ほとんどがゴルフコースを有する。または隣接するリゾートだ。こちらもホテルからの予約が一般的。グリーンフィは平日150リンギット、週末200リンギットが目安となる。プレーはカート使用が中心。午前中、または午後からの18ホールスループレーが一般的で、合理的なスタート時間を取ることで、ゴルフで1日費やすことはない。中には隣接する2コースを掛け持ちプレーする猛者も大勢いるとか。

KIRIN Beverage

松坂大輔 共同開発。

スーパースポーツドリンク[スピード]



Lions

Speed
FOR PROFESSIONALS

THE REAL SPORTS DRINK FOR PROFESSIONALS, IT'S Speed ENERGY FOR BODY AND SPIRIT WITH Speed.
カロリーオフ

のんだあとはリサイクル



キリンビバレッジ

インターネットホームページアドレス <http://www.beverage.co.jp>

ボランティア&チャリティ

Volunteer & Charity

ひとり一人の楽しみを、みんなの幸せに

キリンオープンでは、その大会運営協力を中心に1995年からボランティア制を導入しています。今年で6年目、地元市民や企業、商工会等を中心に、今やすっかり定着した様子です。合わせて、ギャラリー広場等で行われる各種チャリティイベントも、年々盛り上がっています。こうしたボランティア、チャリティ活動は、全て地元の福祉団体に役立てていただくための寄附金に生まれ変わります。トーナメントを楽しみながらの福祉参加。ゴルフイベントの持つ、とても有効な社会貢献の手段でもあるのです。キリンオープンでは、そうした理念の基で、トーナメントを開催しているのです。

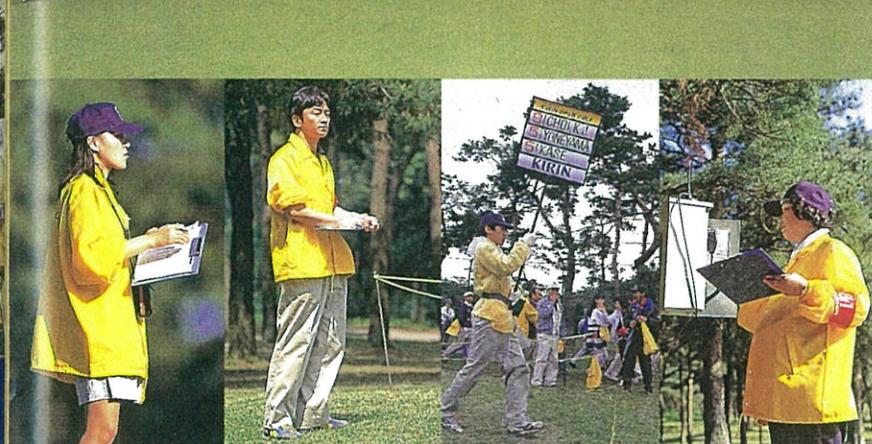
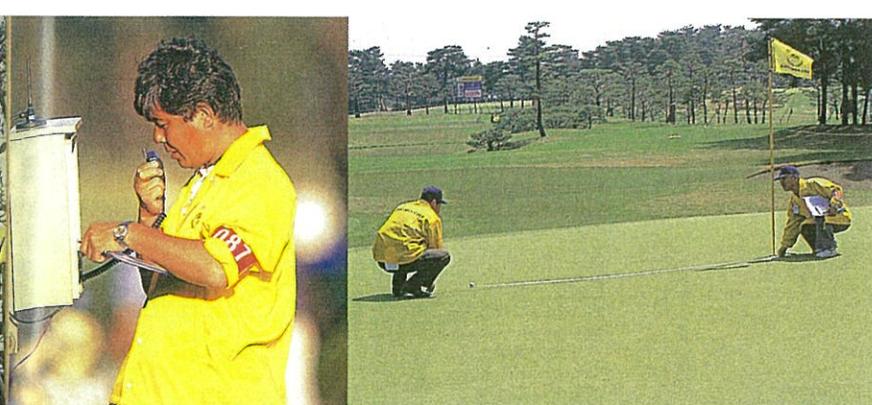
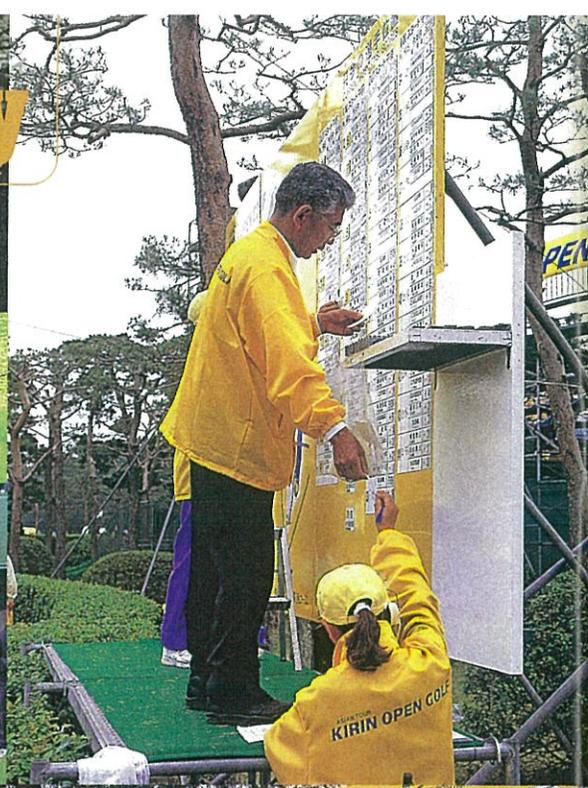
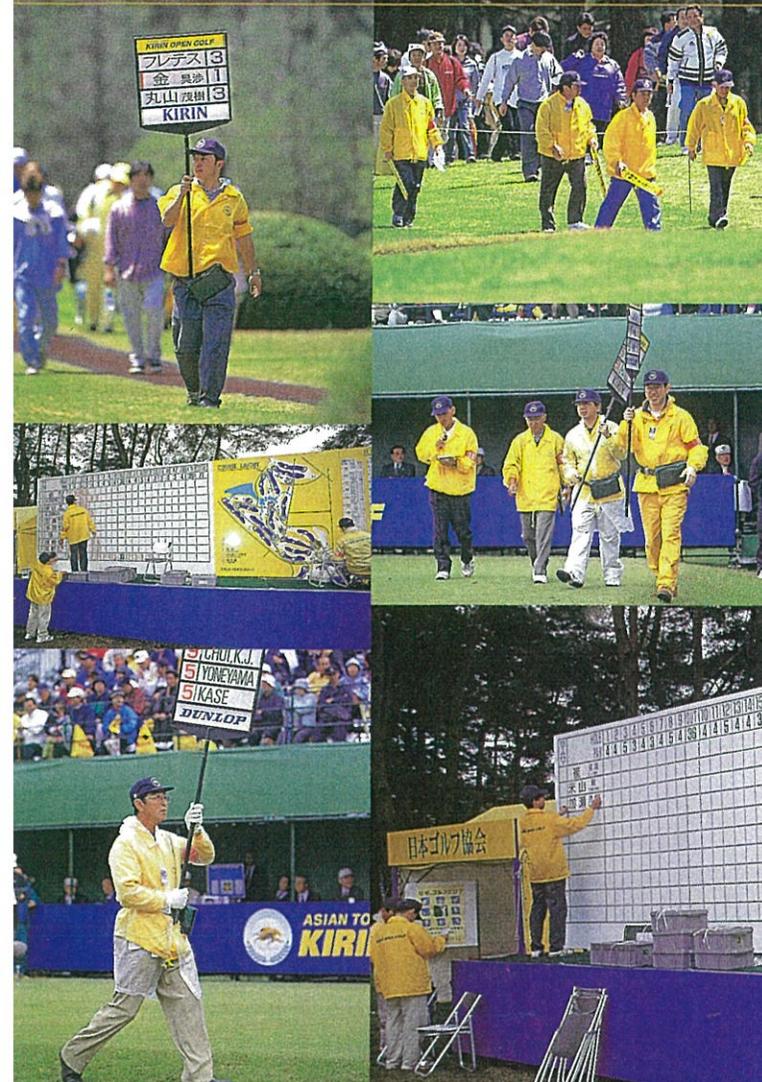


倶楽部(西コース)

Asia Pacific GOLF CHAMPION

Volunteer & Charity

ボランティア&チャリティ



トーナメントの成功が、そのまま社会還元されるシステム

一方、キリンオープンでは、積極的なチャリティ活動にも力を注いでいます。例えばチャリティパッティングコンテスト。ギャラリーのみなさんが、バットの腕試しをするだけで、その参加費用が地元福祉団体へ寄贈されるシステムなのです。合わせてギャラリー入場券収入の一部や、ボランティアスタッフに対して大会側で一名1日に付き1000円ずつの積立を行い、それらも全て地元福祉団体へのチャリティに回るシステムです。トーナメントが開催され、そこにギャラリー、もしくはボランティアとして一人でも多くの人々がやって来れば、それだけで社会還元の規模が大きく成っていくのです。つまりトーナメントの成功は、そのまま社会へと還元されることになるのです。こうした事こそ、ゴルフイベントが持つ、独自の利点と考えられます。

【ボランティアの業務】

「スコアラー」、「キャリングボード」、「ギャラリー整理」、「各種速報板」、「ギャラリー受付」、「コピー運搬」、「フォアキャディー」、「子供広場」、「記入式ボード」、「サマリーボード」など多種にわたっています。

今大会は延べ800名以上が見込まれている。大会では来年度もボランティアを募集する予定です。詳しくは茨城ゴルフ倶楽部(0297-58-1216)までお問い合わせ下さい。

【大会での主なボランティア協力団体】

- 募集は茨城ゴルフ倶楽部と(株)EMMYを窓口として地元を中心に行なっています。
- 茨城親交会
- 伊奈町商工会
- 常陽銀行
- 茨城銀行
- 関東銀行
- 土浦商工会
- 土浦信用金庫
- 茨城県信用金庫
- 土浦青年会議所
- 土浦県事務所
- 谷田部農協
- NTT水海道
- キリンビールOB会
- キリンビール取手工場
- いわきゴルフトーナメントボランティアの会



トーナメントと地元との一体化を目指して近年のゴルフトーナメントの大きなテーマは、国際化と合わせて大会開催地域との一体化にあります。トーナメントは何も選手や主催者、協賛社のためだけのものではありません。地元住民と一緒に大会を盛り上げる。ゴルフを中心とした、大きなお祭り。だからこそ、トーナメントはいつそうエキサイティングなイベントとして話題を呼ぶのです。このトーナメントと地域の結びつき方は、ギャラリーの誘致に留まらず、地元一般市民へのトーナメントへの積極的参加、つまりボランティアとしてトーナメントに関わっていくという方法があります。

奉仕精神が根付いた欧米では、早くからゴルフトーナメントを媒介とした地元市民のボランティアシステムが機能していました。そのため開催地とトーナメントは、密接な関係を保ちながらトーナメントを大きな成功へ導いていたのです。そしてキリンオープンでも、1995年から大会運営にボランティアシステムを導入しました。

延べ600人以上の人が、ボランティアとして大会を楽しみます。

初年度は、大会期間を通じて延べ355人だったボランティア数も、97年には672人に上り、雨のため3日目が中止になった昨年でも、約600人がボランティ

アスタッフとしてキリンオープンを支えてくれました。こうしたボランティアの輪は、地元市民にだけでなく、地元商工会、地元企業や大会スポンサーであるキリン関係者の間にも大きな広がりを見せています。ボランティアを理解するときに、「社会奉仕」「奉仕精神」ばかりが美談として強調されますが、参加する皆さんが、一つのイベントを力を合わせて成功させるために、大いに楽しんでいただきたいと思います。参加者が楽しむことこそ、第一に考えて欲しいのです。大いに楽しみながら、そのことが直接的に奉仕活動につながるのだとしたら、これほど素晴らしいことはありません。

新世紀を目前に控え、
アジア太平洋地域最大の
国際オープンチャンピオンシップとして
生まれ変わるキリンオープン。
だが、この源泉は古く
1952年に始まった
読売プロゴルフ選手権に逆上る。
48年に渡る歴史と伝統、
毎年のドラマの積み重ねは、
キリンオープンの地位を
揺るぎないものに築き上げてきたのだ。

大会名称の変遷は別表の通りだが、純粋な日本国内のプロトーナメントとしてスタートした大会だったが、次第に世界のトッププロの参戦を見て、1961年には当時世界のビッグ3に数えられていたゲーリー・プレーヤーが優勝。世界的に認められるトーナメントへと着実に成長を遂げていった。
62年からは、アジアサーキットの日本大会という位置づけを得、同時にアマチュアへの門戸を開いたオープン競技へ。その年には、それまで全英オープンで4回制していたピーター・トムソンが、翌年には米ツアーの強豪ダグ・サンダースが優勝と、世界的なプレーヤーが参加し、見事なプレーを披露していた。むしろ日本選手の優勝者の顔触れを見ても、林由郎、中村寅吉ら、日本のプロゴルフ創世記を彩る名選手の名前が並んでいる。
日本のトッププロと世界の強豪の激突こそが最大の焦点となるトーナメントだったのだ。アジアサーキットが発展的解消をし、アジアツアーが生まれた後は、アジア太平洋地区のトップ選手が、自

新時代の礎を築いた48年間の歴史

国の威信を懸けてプレー。謝敏男(台湾)、ベン・アルダ(フィリピン)、テリー・ゲール(豪州)らに混じって、デビッド・グラハムやラリー・ネルソンらの名前も。そして日本勢は青木功、ジャンボ尾崎、中島常幸、倉本昌弘ら、時代を代表する選手たちが栄光のチャンピオンボードにその名を刻むことになる。

このように半世紀にも及ぶトーナメントの歴史は、すなわち世界とアジア、そして日本のトーナメント史を映し出している。輝かしい歴史と伝統。その上に、また新たな歴史が積み重ねられる。2000年大会、大きく模様替えしたキリンオープンで最初に制する者は、いったい誰なのだろう。

77 47才のベテランが3日目首位から逃げ切り、記念すべき初代王者に輝いた。

百戦錬磨の技が冴え B・アルダ優勝



81 混戦を制したのはやはり実力者。4がキーの後3連続バーディーで盛り返した。

我慢の島田 逃げ切り初V



78 日本ツアー参戦14年目の嬉しい勝利を2位に11打差という独走優勝で飾った。

郭吉雄23アンダーの国内タイ記録で初V



82 27才の中島が77年日本プロに続く公式戦2勝目を大差リードで勝ち取った。

中島常幸独走 逃げ切りで初優勝



79 大会3年目にして初の日本人チャンピオンが誕生。この優勝も逃げ切りだった。

「遅咲きプロ」の石井裕士逃げ切る



83 16番劇的イーグルのネルソンが倉本の驚異的追い上げをしのいで国内2勝目。

劇的イーグルでネルソンが倉本をかわす



80 外国勢を撃破して、ジャンボがスランプ脱出のきっかけとなる優勝を飾った。

ジャンボ尾崎1年7ヶ月ぶりの国内優勝



84 ベテランの技で大混戦を抜け出し、大会優勝とともに総合優勝も手にした。

ジェイコブス逃げ切りVで総合優勝



85 最終日、見事な大逆転劇を演じたのは台湾が誇る実力派、陳兄弟の弟だった。

5打差大逆転で陳志忠優勝



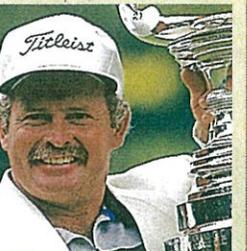
90 ベテラン杉原を2ホール目で下す大会初Vでサーキット総合優勝に花を添えた。

F・ミノザ大会初のプレーオフを制す



95 強烈な風の中、落ち着いてプレーで逃げ切りV。国内3勝、通算16勝目を達成。

P・シア6打差リードで余裕の逃げ切り



86 強風吹き荒れる悪コンディションの中、我慢のゴルフで5勝目をたくり寄せた。

サイバルレースをしのいだ重信初V



91 最終ホールのアプローチを直接カップインさせ、大混戦にピリオドを打った。

マツカイ混戦を制して初優勝を飾る



96 3打差3位タイからスタートした金子が逆転V、賞金レースを大きくリードした。

金子柱意、逆転優勝でシーズン2勝目



87 世界の青木が大会11回目にしてようやく優勝カップにその名を刻みこんだ。

青木逃げ切りVで通算50勝達成



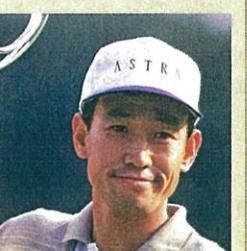
92 4打差を追いついてプレーオフに持ち込み、スーパーバーディーで大会3勝目。

プレーオフを制しジャンボ逆転優勝



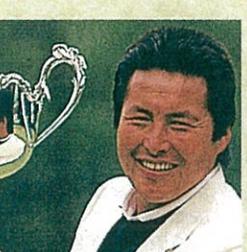
97 前日まで首位の丸山茂樹が崩れ最終ホールでチップインの金が抜け出す。

金鍾徳、逆転で初優勝 総合優勝にも輝く



88 初日から好スタートのジャンボが逃げ切り優勝で大会初の2勝目をマークした。

ジャンボ公約通りのV D・イシイを再逆転



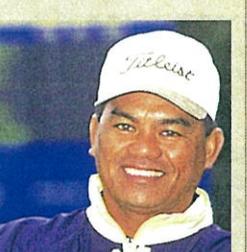
93 開幕戦に続いて早くも2勝目をマーク、賞金王に向けて大きなステップとした。

飯合肇、完璧ゴルフでシーズン2勝目



98 悪コンディションの中、ミノザが「負けないゴルフ」を展開。後続を振り切った。

ミノザ辛勝。大会2勝目、総合優勝も2度目のV



89 最終4ホールの連続バーディーの離れ技で首位スタートのジャンボを大逆転。

T・ゲール大逆転優勝 ジャンボ2連覇成らず



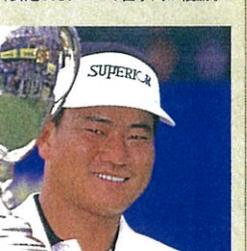
94 チャージゴルフで鮮やかな逆転劇を披露、シーズン初Vは通算82勝目となった。

ジャンボ尾崎、またも逆転で大会4勝目



99 競技は降雨で3日間に短縮されたものの、安定したリズムで崔京周が優勝。

韓国の王者、崔京周がプレーオフを制す



大会優勝者の変遷 (1952~1976)

●読売プロ・ゴルフ選手権

1952	林 由郎	296 (72-78-71-75) 程ヶ谷
1953	石井朝夫	307 (74-77-76-80) 広野
1954	栗原甲子男	287 (75-71-71-70) 相模
1955	林 由郎	290 (72-74-72-72) 鷹之台
1956	中村寅吉	295 (74-71-74-76) 茨木
1957	小野光一	286 (70-72-71-73) 小金井
1958	J.パークJr.	289 (73-71-73-72) 相模原
1959	島村祐正	295 (74-76-74-71) 西宮
1960	橘田 規	293 (71-71-75-76) 鷹之台
1961	G.プレーヤー	289 (75-72-72-70) 読売P.

●読売国際オープンゴルフ選手権

1962	P.トムソン(豪)	278 (72-68-64-74) よみうり
1963	D.サンダース(米)	289 (68-77-71-73) よみうり
1964	降雪のため中止	
1965	F.フィリップス(豪)	288 (72-73-74-69) よみうり
1966	H.ボイル(英)	286 (68-71-71-76) よみうり
1967	河野 光隆	282 (73-70-64-75) よみうり
1968	陳 清波(台)	283 (68-75-68-72) よみうり
1969	G.ウオルステンホルム(英)	288 (71-72-76-69) よみうり
1970	D.グラハム(豪)	286 (71-71-75-69) よみうり
1971	安田 春雄	282 (71-66-72-73) よみうり

●総武国際オープン

1972	謝 敏男(台)	279 (71-72-72-64) 総武
1973	内田 繁	279 (70-66-69-74) 総武
1974	呂 良煥(台)	280 (71-71-68-70) 中山
1975	杉原輝雄	282 (71-74-69-68) 総武
1976	B.アルダ(比)	277 (69-68-70-70) 総武

特製オペラグラスで トーナメントをもっと楽しもう!



キリンオープンでは、チャリティ活動の一環として「特製折りたたみ式オペラグラス」を製作しました。このオペラグラスは、障害を持つ方々が職業技能を習得し、働く機会を得て社会的に自立できることを目的に設置されている全国の「授産施設」で組み立てられているもので、財団法人キリン福祉財団が入手し、ギャラリーの方々に配布しているものです。そして皆様からいただいた善意(チャリティ金)を茨城県心身障害児者福祉施設協議会などに寄贈させていただきます。皆様方のご協力をお待ちしております。

財団法人 キリン福祉財団

設立の趣旨

財団法人キリン福祉財団は、キリンビール株式会社の創立75周年(昭和57年2月)ならびに国際障害者年を記念して、キリンビール株式会社の企業活動の基盤である社会への感謝の気持ちを表わし、社会への連帯調和を重んじる経営方針をより明確な形で具現するため、キリンビール株式会社によって設立されたものです。

なお、財団名称は事業分野をより明確に表現するため、平成6年8月に「財団法人キリン記念財団」を「財団法人キリン福祉財団」に改称いたしました。

財団の目的

障害者および老人の福祉向上、ならびに青少年の健全育成等児童の福祉に関する諸活動に対し、援助を行い社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

事業の内容

財団の目的を達成するため次の事業を行っています。

1. 障害者・老人の福祉関係

- (1) 障害者・老人の家族介護者への援助事業
寝たきりの障害者・老人をご家庭で介護している人をご慰労する行事で、全国100余の社会福祉協議会・自治体から推薦された対象者を1泊の慰労旅行、又は日帰りの観劇へご招待
- (2) 民間福祉事業功労者表彰・慰労事業
民間福祉事業の第一線で永年事業に従事し、功績をあげられた人を表彰、慰労する行事
- (3) 障害者の自立のための支援事業
障害者の自立のため活動している全国自立生活センター協議会(JIL)への援助
- (4) ボランティア活動促進のための事業
肢体不自由児療育キャンプにかかわるボランティア活動への援助など
障害者・高齢者による地域福祉に関するボランティア活動
- (5) ハンディキャップ購入への援助
各地区社会福祉協議会がその事業活動で使用するハンディキャップ(福祉用車輦)の購入を援助
- (6) その他
福祉向上のための先駆的な研究・開発事業への援助

2. 青少年の健全育成関係

- (1) 「こどもの国」における行事への援助
キリンカップ少年サッカー大会、キリン賞吹奏楽コンテストの開催および費用の援助
- (2) 「こどもの城」における行事への援助
キリンファミリー劇場、キリンファミリーオペレッタ開催にかかわる費用の援助
- (3) 児童福祉文化普及事業への援助
キリン劇あそび、キリンリーダーズシアターの開催への援助

- (4) キリンファミリー賞作品募集・表彰事業
明るく健康な家庭生活をテーマにした作品を募集し、応募作品の中から優秀作品を表彰する事業への援助
- (5) その他
青少年の健全育成に関わる先駆的事业

財団概要

設立年月日 昭和56年7月21日
主務官庁 厚生省
基本財産 47億2,000万円
助成金額 1億4,000万円(平成12年度)

財団役員

- [理事長] 本山 英世(キリンビール(株)名誉相談役)
[副理事長] 佐藤 安弘(キリンビール(株)取締役社長)
[常務理事] 渡辺 禮司(キリンビール(株)より派遣)
<五十音順>
[理事] 穴山 徳夫(福祉機器開発センター理事)
片桐 鎮夫(北里研究所病院名誉院長)
上村 一(恩賜財団母子愛育会理事長)
熊崎 正夫(血液製剤調査機構理事長)
小池 欣一(骨髄移植推進財団理事長)
島山 保雄(丸の内総合法律事務所弁護士)
<五十音順>
[評議員] 板山 賢治(日本障害者リハビリテーション協会副会長)
蒲地 清弘(恩賜財団慶福育児会常務理事)
志立 託爾(三菱信託銀行(株)最高顧問)
鈴木 五郎(国際医療福祉大学教授)
竹田 晴夫(東京海上火災保険(株)相談役)
奈良 久弥(株)三菱総合研究所取締役会長)
波多健治郎(明治生命保険相互会社取締役会長)
藤田 近男(キュービー(株)顧問)
藤村 正哉(三菱マテリアル(株)取締役会長)
<五十音順>
[監事] 安土 正篤(キリンビール(株)顧問)
石井 賢郎(朝日監査法人代表社員)

財団事務局

- [事務局長] 渡辺 禮司
[副事務局長] 矢島 三郎
[事務局次長] 広瀬 邦裕
[総務課長] 木村その子

財団法人 キリン福祉財団

〒104-8288 東京都中央区新川2丁目10番1号キリン本社ビル内
TEL:03-5540-3522 FAX:03-5540-3525



●お願い

サインをお求めになる場合は、選手がラウンドを終了し、スコアカードを提出した後にお願います。プレー中、又はスタート前はご遠慮下さい。プレー終了後、練習場に向かう途中、又は練習場からクラブハウスに戻る途中なら気軽にサインに応じてくれます。

新鮮な明日へ

KIRIN

うまい!キリン



コク、苦み、ビールのうまさ
キリンラガービール

飲酒は20歳になってから。あきかんはリサイクル。
ホームページアドレス <http://www.kirin.co.jp> キリンビール株式会社

